

ANNUAL REPORT

島根大学医学部
地域医療支援学講座報告書

ANNUAL REPORT

島根大学医学部
地域医療支援学講座報告書



国立大学法人
島根大学医学部地域医療支援学講座
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL(0853)20-2558 FAX(0853)20-2563
career@med.shimane-u.ac.jp

COMMUNITY MEDICINE
MANAGEMENT
Faculty of Medicine SHIMANE University

2024
令和6年度



目次 CONTENTS

ごあいさつ	02
 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介	04
 講座紹介	05
 1年間のあゆみ	06
1 学生教育	06
2 学生支援等	18
3 地域医療交流サロンの取り組み	34
4 地域医療支援等	39
5 ホームページ・広報誌等による情報発信	42
6 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み	47
7 ワークライフバランス	51
8 地域医療支援学講座15周年記念島根地域医療シンポジウム	57
 業績	67
 写真で見る1年間	75
おわりに	81

ごあいさつ

MESSAGE

島根大学医学部長 石原俊治

島根大学医学部長の石原俊治です。このたび、地域医療支援学講座の年間活動報告書に寄稿する機会をいただき、大変光栄に存じます。

地域医療支援学講座は、全国的な医師不足や医療崩壊が懸念される中、地域医療の課題解決を目的として、平成22年4月に島根県の寄附講座として設立されました。以来、地域の医師確保や救急医療体制の強化に貢献し、令和6年度には設立15周年を迎えました。昨年12月には記念事業が開催され、多くの関係者が一堂に会し、盛大な式典が行われました。

本講座は、学内の各講座や研修センターと連携するとともに、島根県や地域の医療機関とも協力し、学生の育成や医師のキャリア形成を支援しています。地域卒入学の学生に限らず、卒前・卒後教育全体にも大きな影響を与えています。

卒前教育では、地域医療学の講義や研究室での学習、県内病院・診療所での実習を通じて、実践的なスキルの向上を図っています。また、地域で活躍する専門医によるセミナーやSNSを活用した情報発信など、多様な活動も展開されています。これらの取り組みは、学術集会での発表や論文執筆にもつながり、学生の研究意欲を高める契機となっています。卒後教育においても、博士課程の学生が地域医療の発展に貢献できる力を養い、卒前からの一貫した教育体制が充実しています。学生たちは自主的に研究を行い、地域医療の未来に向けた知見を深めています。

現在、「文部科学省：ポストコロナ時代医療人材養成型拠点形成事業」において、岡山大学・香川大学・鳥取大学と連携し、「多地域共創型」医学教育拠点の構築を進めています。本事業では、多様な地域医療ニーズに対応できる医師の育成を目指しており、島根大学は地域医療分野を担当しています。学生が山間部、里山、海辺の離島といった異なる医療環境を経験しながら学ぶことで、地域医療の現状や課題をより深く理解できる仕組みを構築しています。4大学の連携により、地域医療の未来を担う優秀な医師の育成と、地域社会へのさらなる貢献が期待されます。

医学部長として、本講座の幅広い教育活動とその影響力に深く感銘を受けるとともに、日々ご尽力いただいている関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、地域医療支援学講座のさらなる発展と、関係者の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

ごあいさつ

MESSAGE

地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

皆様方には、島根大学医学部地域医療支援学講座の取り組みに対しまして、平素より多大な御協力賜り、深く感謝申し上げます。

2024年度は医師の働き方改革が開始となり医療の質担保をめぐって地域医療においてはマンパワー不足をより実感させられる年でありました。加えて医療人育成においては人口減少する中、地域枠等入学制度の在り方も現在新たな岐路にたっております。島根県の医療を守るためには、若者に島根の地域医療に興味をもってもらうことが益々重要になってきていると痛感しております。

当講座では春季・夏季の地域医療実習、フレキシブル実習に加え、5年生全員が対象となるクリニカルクラークシップ、総合診療・地域医療コースやポストコロナ医療人材養成事業に関する実習に関わらせていただいております。そういった参加型実習の実施によって参加者の学びが深くなるような企画に今後も積極的に取り組んでまいりたいと思います。これらの企画はいずれも受け入れ機関、施設様はじめ多くの地域の関係者皆様のご理解ご協力により実施出来ております。皆様の教育的な示唆やご尽力により貴重な学習環境が成立しております。参加学生からは、学びが深まった、有意義であったという感想と受け入れ施設・スタッフ様への感謝の言葉が多数寄せられています。ここに心より御礼申し上げます。今後も感染対策を講じながら、医学生が地域医療の魅力を実感し、これからの地域医療の在り方を考える機会作りを積極的に展開していきたいと思っております。そして一人でも多くの学生らが、島根に愛着をもって社会貢献したいと思ってもらえるように取り組んでまいりたいと思っております。

また、本年度は地域医療に関する臨床研究を地域の先生方や大学院生と継続実施し、徐々にではありますが形になってまいりました。多くの診療科の若手医師が、地域で勤務しながらリサーチマインドをもって努力し研究を行っています。こういった研究環境も地元住民様、機関長様はじめ多くの関係者皆様の温かなご支援の賜物に他なりません。これからも若手医療人キャリア支援にご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。また、地域医療学I・II、地域医療セミナー、キャリアセミナーにおいても多くの先生方に講師等でお世話になり有難うございました。島根には、地域全体で医師を育てるといった魅力的な風土があると思っております。地域医療に関する課題は重いものがございますが、課題を解決すべき夢ととらえオールシマネならびにシマネサポーターの皆様と共に切磋琢磨を続けてまいりたいと思っております。

今年度当講座は15周年をむかえることができました。これまでの皆様の講座取り組みへのご協力ご支援に感謝し、今後も地域医療支援学講座は与えられたミッションに基づき、島根県の地域医療の発展に関係者の皆様とともに頑張っていこうと考えておりますので、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。



島根大学医学部地域医療 支援学講座メンバー紹介

MEMBER

教員

教授	佐野	千晶	平成31年4月～
助教	布野	慶人	平成29年4月～
助教	堀田	優希	令和2年7月～
特任助教	家本	美佳	令和6年4月～

事務職員

特定職員	高橋	和歌子	令和3年5月～
特定職員	楠田	有希	令和3年5月～
特定職員	伊藤	美玖	令和6年5月～

新任の挨拶

特任助教 家本 美佳

令和6年4月より、地域医療支援学講座に特任助教として着任いたしました、家本美佳と申します。

私は島根大学医学部附属病院にて、臨床看護師として40年間勤務してまいりました。これからは、臨床現場で培った看護師としての経験を活かし、地域の健康な未来に貢献できるよう努めてまいります。そして、地域医療に関心を持つ学生の皆様と共に学び、共に成長していけるよう尽力していく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

出身は出雲市ですが、現在は奥出雲町の山奥に住んでおり、休日にはお米や野菜を作っています。気分転換に、ぜひ一緒においしい野菜作りをしてみませんか？お待ちしております！



島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



講座紹介

COURSE

当講座は、地域医療教育学講座、総合医療学講座、総合診療医センター、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図っている。学生が地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるように、また医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援するために、以下の様な取り組みに関わっている。

1 医学科学生教育

《学生教育》

- 1年生：講義「地域医療学」【必修】
- 2年生：講義「地域医療学II」【必修】
- 3年生：研究室配属【必修】
- 4年生：ドクターキャリア形成特別講義(キャリア教育)【必修】
- 5年生：臨床実習(総合診療・地域医療)【必修】
- 6年生：臨床実習(地域医療実習)【選択】
- 1年～6年 夏季・春季休業期間：地域医療体験実習I(夏季・春季地域医療実習)【自由】
- 1年～6年 通年 必修科目時間外：地域医療体験実習II(フレキシブル実習)【自由】

《学生支援》

地域医療セミナー：学外講師招聘(年9回)、Career seminar：学内講師招聘(年10回)
 ビデオセミナー(8月3月を除く月4回)、総合診療医ブラッシュアップセミナー(年1回)
 総合診療専門医プログラム説明会(本年開催なし)、感染症セミナー(年2回)
 学生面談、学生と地域との交流支援、学生企画の支援 等

2 医師のキャリア支援活動

地域枠等医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援
 総合診療専門医育成支援、しまね総合診療の集い(年6回)
 しまね地域医療支援センター理事及び専任医師(教授)
 Iターンを含む県内医師のキャリア支援、研修会等の託児支援

3 地域医療支援

地域医療システムマネジメント支援、ワークライフバランス支援(復職支援を含む)
 地域医療を支える住民活動支援、地域医療コーディネータ支援、地域医療研究会支援



1年間のあゆみ

TIMELINE

1 学生教育

① 地域医療学

平成28年度から医学部1年生を対象に地域医療学の授業を開講している。

【期 間】令和6年10月4日(金)～令和7年1月24日(金)

【概 要】後期より医学科1年生の「地域医療学」の授業が始まった。

地域医療学は、6年間を通じた地域医療教育プログラムの最初の授業科目である。島根県の地域医療の実態を理解することに加え、医療を多角的な視点から理解をすることを目指している。臨床医のみならず、公衆衛生、歴史学、国際協力、患者会、地域医療を守り育てる住民活動を行う方等、学内外の講師と連携し実施している。多様なバックグラウンドを持つ個性豊かな講師陣の講義は、地域医療への指向性を高める第一歩になることが期待される。

また、夏季休業中に地域医療体験実習Ⅰ・Ⅱに参加した学生の学びが、この講義を通じて統合されることや、新たな実習に導かれることも期待したい。

授業日程表(令和6年)

回	月日	時間	場所	授業内容	担当
1	10. 4(金)	13:00 ～ 14:40	L3	地域医療とは	佐野
2	10. 11(金)		臨床大講堂	医学史—華岡流外科の普及と近代医学	梶谷
3	10. 18(金)		臨床大講堂	市街地の地域医療	花田
4	10.25(金)		L3	離島の地域医療	白石
5	11. 1(金)		L3	多職種連携Ⅰ	佐野
6	11. 8(金)		L3	多職種連携Ⅱ	佐野
7	11. 15(金)		L3	中山間地の地域医療Ⅰ	角田
8	11. 22(金)		L3	中山間地の地域医療Ⅱ	上野
9	11. 29(金)		L3	ネパールでの医療貢献:その限界と将来	森
10	12. 13(金)		L3	公衆衛生行政と地域医療	村下
11	12. 20(金)		L3	地域包括ケア	谷口
12	12. 27(金)		L3	病院前救急	布野
13	1. 10(金)		L3	高齢社会と地域医療	杉谷
14	1. 24(金)		L3	災害医療	渡部



② 地域医療学Ⅱ

【期 日】令和6年6月15日(木)

【概 要】令和5年度より、地域医療の学びの継続をはかるため医学科2年生を対象に地域医療学Ⅱの授業を開講している。講師には雲南市立病院の西倉希先生と島根県医療統括監の谷口栄作先生を迎えた。医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等を持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努めることを学習目標としている。グループディスカッションを行いながら学習を深めた。

③ 研究室配属

【期 間】令和6年9月2日(月)～10月4日(金)

【概 要】研究室配属は各々が興味のある講座で1か月実習を通して勉強する。当講座には地域医療に興味をもつ6名が配属された。地域医療支援学講座の研究室配属では、「①チーム医療・多職種連携の実際を理解すること、②地域の保健・医療・福祉・介護の現場を実際に見て体験し、地域包括ケアシステムや今後求められる医師の資質についてじっくりと考察し実践的なスキルを習得する」ことを学習目標として掲げている。

今年度も大学講義室から飛び出し多様なフィールドで実習を行った。診療所、訪問看護ステーション、保健所、消防本部、がんサロン、地域医療連携センター、大田市、浜田市に足を運び、地域医療の学びを深めた。報告会のプレゼンテーションでは、積極的な意見交換がなされ盛会であった。これからの学生生活、ひいては将来の地域医療実践に今回の経験が活きてくることを期待している。



④ 臨床実習入門特別プログラム ドクターキャリア形成特別講義(キャリア教育)

臨床実習前の医学科4年生を対象にした、キャリア教育を島根県医師会と共に主催している。

【日 時】令和6年11月21日(木) 9時40分～16時10分

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】島根大学医学部4年生

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】

① 講演ならびにワーク

広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

② キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生

島根大学医学部附属病院 小児脳神経疾患治療センター センター長 君和田 友美 先生

島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生





- ③ 島根大学におけるダイバーシティ推進の取り組み
島根大学副学長(男女共同参画担当) 河野 美江 先生(オンデマンド)
- ④ 島根県「えんネット」の取り組み
島根大学医学部地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

「緩和ケア医として生きること」

信州大学 信州がんセンター緩和部門教授 間宮 敬子 先生

⑤ 臨床実習入門特別プログラム 特別講演(ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業)

【日 時】令和6年11月15日(金) 12:50~13:50

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】医学部医学科4年生

【講 師】岡山大学学術研究院医師薬学域

地域医療共育推進オフィス特任准教授 香田 将英 先生

【概 要】「臨床的疑問を解決するための生成AI活用」と題して、生

成AIとの付き合い方、情報リテラシーについて学んだ。生成AIを利用した医療面接練習システムを作成し、教育へと生かしている。論文の検索方法や様々な生成AIの特徴についてお話しいただいた。臨床現場に出ることで疑問が増え、その時の情報収集の方法として生成AIを賢く利用する方法を学ぶことができた。自身のすでに持っている能力を拡張する使い方をして大事なのは自分のスキル上達であることを見失わないようにすることが大事であると言われた。最後に生成AIは筋トレ道具であり、正しく使えば効果的であるが、使い方を間違えば自分のためにもならずけがにもつながることがあるとわかりやすく例えていただいた。学生からも「AIにこれまでなじみがなかったが、友好的に使えることがわかりためになった」と感想があった。



⑥ 臨床実習入門特別プログラム 特別講演

【日 時】令和6年11月27日(水) 9:40~11:10

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】医学部医学科4年生

【講 師】NPO法人ささえあい医療人権センター

COML理事長 山口 育子 氏

【概 要】「患者と向き合う 臨床実習直前の医学生の方へ」と題して、臨床実習に臨む心構えについて講演を頂いた。

ささえあい医療人権センターCOMLの創設の経緯と活動についてご紹介頂き、「患者という個別的な存在について“知る努力”で理解に近づく」「患者が医療者に求めていること」「インフォームド・コンセントの成熟」「患者が不信感を抱く医療者の対応」「患者の理解を阻害するもの」「こんな医師に出会いたい」等について分かりやすくお話し頂いた。

学生からは、「今まで受けた授業の中で1番興味深い授業でした。」「患者さんとのかわり方について学べた。」等多くの感想が寄せられた。

実習を前にした学生は具体的な示唆に気持ちを引き締め、実習に臨む心構えができたのではないかと考える。



⑦ 臨床実習(総合医療・地域医療実習)

本実習は、4-5年次の必須臨床実習Iにおいては、附属病院の全診療科をローテーションして実習を行う。

5-6年次の臨床実習IIでは、地域病院での実習も可能となっている。

総合診療を実践する医療者の指導のもと、真の参加型実習を通じて実践的臨床能力を修得することを目標とする。行動目標として、プライマリ・ケアの実践や地域包括ケアの理解が出来るように努力している。

当講座の教授は、実習前のオリエンテーションや4週間の実習最後の総括として行われるフィードバックに参加している。



■令和6年度 総合診療・地域医療実習モデルスケジュール(必須臨床実習)

	月	火	水	木	金
1週目	「プロフェッショナリズム」 鬼形 和道 先生(zoom) 「医療面接」 ヴェロニカ先生&牧石先生 (zoom)			「総合診療一週目の学び」 牧石 徹也 先生(zoom) feedback(zoom) 牧石 徹也 先生 白石 吉彦 先生 長尾 大志 先生	
2週目				feedback(zoom) 牧石徹也 先生 白石 吉彦 先生 長尾 大志 先生	
3週目			「患者中心の 医療技法について」 高橋 賢史 先生 (zoom)	feedback(zoom) 牧石徹也 先生 白石 吉彦 先生 長尾 大志 先生	
4週目			「プライマリケアの ACCCA」 佐藤 誠 先生 (zoom)		学生の実習発表会 集合:臨床小講堂 feedback

※白紙部分は、各実習先病院メニュー



■令和6年度島根大学医学部地域医療教育連絡会

主に臨床実習Ⅱ 選択臨床実習 6年生

本学学生は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を学習し、医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めるため、県内の地域医療機関で実習を行っている。この地域医療実習を更に充実させるため、県内医療機関を8つのブロックに分け、地域医療教育に携わる本学医学部教員と各ブロックの実習担当者（指導医等）と意見交換を行うものである。

今年度はなるべく一度に多くの声を共有するため、原則全機関を対象に2回行った。

実施日	内 容
6月7日(月)	①令和6年度島根大学医学部地域医療実習（6年生について）
6月12日(水)	②令和7年度臨床実習日程について
	③情報交換 事前アンケート、改定版モデルコアカリキュラム

進行・主担当 佐野 千晶

■令和6年度5年生臨床実習I振り返り会

総合診療・地域医療、産婦人科、小児科合同（4週間クリニカルクラークシップ診療科）

参加者：地域病院 研修担当者

実施日	内 容
6月17日(月)	①地域病院との今年度の臨床実習現況について振り返りを行う。

進行・主担当 竹谷 健先生（臨床実習専門部会長、小児科）

■総合診療／地域医療学実習説明会

医学科4年生向け

実施日	内 容
7月31日(水)	①令和6年度総合診療・地域医療クリニカルクラークシップ説明（必須 臨床実習Ⅰ）
	②各医療機関の動画視聴
	③質問並び諸手続き

進行・主担当 牧石 徹也先生（総合医療学講座）

佐野千晶が質問対応した。

⑧ 地域医療体験実習I(夏季・春季地域医療実習)

夏季・春季地域医療実習は、島根大学医学部が島根県と連携して行う実習である。2次医療圏の7つの保健所が、圏域の医療機関や福祉施設、地域包括支援センター、医療機器メーカー等に依頼・調整を図り企画するものである。学生たちは体験や見学を通して、地域医療の現状や公衆衛生業務に対する理解を深める。



■令和6年度地域医療体験実習I(夏季地域医療実習)報告会

【期 間】令和6年8月23日(金)14:00~16:00(Web開催)

【参加者】学生21名 報告会:学生 21名 担当指導者:13名

【概 要】島根県7圏域の保健所と病院関係機関の協力を得て夏季地域医療体験実習を行った。全国4つの大学から医学生21名が参加した。

8月の暑い中、積極的に実習を行い、実習先での即興報告会でもしっかりと疑問点や今後の課題を報告ができたことは大きな成果であった。

最終日の報告会はオンラインで行われた。4グループに分かれ「一番印象に残った体験」「地域医療の良いところ・課題」「地域医療の課題の解決策」について活発にグループワークを行い代表者が発表を行った。今回の実習が学生達にとって大きな刺激となり今後のモチベーションに繋がることを期待する。



報告会 8月23日(金)

実施機関	実施地区と計画書	日 程	参加人数
松江保健所	松江	8月19日(月)・20日(火)・22日(木)	2名
雲南保健所	雲南市立病院	8月19日(月)～21日(水)	2名
	飯南町立飯南病院	8月19日(月)～21日(水)	1名
	町立奥出雲病院	8月19日(月)～21日(水)	3名
出雲保健所	出雲	8月20日(火)～22日(木)	2名
県央保健所	県央 大田地区	8月20日(火)～22日(木)	2名
	県央 邑智地区	8月20日(火)～22日(木)	2名
浜田保健所	浜田	8月19日(月)・20日(火)・22日(木)	2名
益田保健所	益田	8月19日(月)～21日(水)	2名
隠岐保健所	隠岐 島後	8月19日(月)～22日(木)	1名
	隠岐 島前	8月19日(月)～22日(木)	2名

参加者合計 21名

【学年別内訳】

1年	2年	3年	4年	5年
13	4	2	1	1

【大学別内訳】

島根大学	鳥取大学	自治医科大学	琉球大学
15	1	4	1



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

■令和6年度地域医療体験実習I(春季地域医療実習)報告会

【日時】令和7年3月7日(金)14:00~16:00(Web開催)

【参加者】学生7名 報告会:学生6名、担当指導者:10名

【概要】島根県の7圏域に所在する保健所において、実習計画を立案いただき、関係機関のご理解とご協力のもと実習が無事終了した。実習開始の1週間前には、布野助教によるオリエンテーションが実施され、本実習の詳細について説明が行われた。

また、保健所長からは医療・介護連携や地域の課題について説明を受け、実習施設では地域医療の役割を学んだ。病院や診療所では外来診療の見学や訪問診療・訪問看護に同行し、多職種連携や住民の生活に触れた。

7日の報告会では、各グループに分かれ、「一番印象に残った体験」「地域医療の良い点と課題」「地域医療の課題解決策」について話し合い、各グループの代表者が発表を行った。今回は7名という少ない参加者の中で行われた実習であったが、この報告会を通じて、実習が非常に有意義でありあるものであったことが窺え、参加者は、地域医療の現状を肌で感じる事ができた。

実施機関	実施地区と計画書	日程	参加人数
松江保健所	松江	3月3日(月)~5日(水)	1
雲南保健所	雲南市立病院	3月3日(月)~5日(水)	1
	飯南町立飯南病院	3月3日(月)~5日(水)	0
	町立奥出雲病院	3月3日(月)~5日(水)	0
出雲保健所	出雲	3月3日(月)~5日(水)	0
県央保健所	県央	3月4日(火)~6日(木)	1
浜田保健所	浜田	3月3日(月)~5日(水)	2
益田保健所	益田	3月4日(火)~6日(木)	1
隠岐保健所	隠岐 島後	3月3日(月)~6日(木)	1
	隠岐 島前	3月3日(月)~6日(木)	0

参加者合計7名

【学年別内訳】

1年	2年	5年
4	2	1

【大学別内訳】

島根大学	鳥取大学
6	1





⑨ 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)・ポストコロナ事業実習

島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、学生自らが、希望実習病院にコンタクトをとり、実習内容を計画立案する実習である。今年度は、地域医療研究会(学生サークル)を含む延べ50名の学生から申し込みがあった。

令和6年度地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習・ポストコロナ事業実習)参加実績

施設名	期間		医学科						小計
	自	至	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
西川病院	令和6年4月2日	令和6年4月4日			1				1
隠岐病院	令和6年7月20日	令和6年7月20日					1		1
雲南市立病院	令和6年8月1日	令和6年8月2日		1					1
ももたろう往診クリニック	令和6年8月1日	令和6年8月2日	1	1					2
ももたろう往診クリニック	令和6年8月14日	令和6年8月16日	2						2
波佐診療所	令和6年8月20日	令和6年8月21日			2	1			3
西川病院	令和6年8月22日	令和6年8月22日				1			1
波佐診療所	令和6年11月2日	令和6年11月2日	1	1	2				4
波佐診療所	令和6年11月2日	令和6年11月3日	2		5				7
波佐診療所	令和6年11月3日	令和6年11月3日	1		2				3
三朝温泉病院	令和7年2月25日	令和7年2月26日			1	1			2
波佐診療所	令和7年3月10日	令和7年3月12日	3	1	1				5
◇鳥取大学医学部附属病院						1			1
◇哲西町診療所(岡山県)							1		1
合計			10	4	14	4	2	0	34

◇印はポストコロナ事業実習(ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業)

■地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)報告会

【日 時】令和6年5月30日(木)18:00～19:00

【期 間】令和5年11月～令和6年4月4日

【参加者】学生20名(2年5名 3年7名 4年8名)
教員4名

【概 要】令和5年11月から令和6年4月まで地域医療体験実習Ⅱに参加した学生は延べ28名で、波佐診療所、あさひ社会復帰促進センター診療所、鳥根県立中央病院、西川病院、奈義ファミリークリニック、東京ふれあい医療生活協同組合研修・研究センターの6医療機関で受け入れていただき、9名の学生が今回実習報告を行った。



学生それぞれが実習の目標を掲げ、精力的に実習を行った。感想からも「都会での地域医療が学べた」「サークルを通じて運動療法の重要性が理解できた」「山間部とは逆の医療を見ることができ良い経験になった」「アルコール依存症の理解が深まった」等、貴重な経験ができたようである。学生はこれに限らず、これからも積極的に様々な場所に出向いて、地域の風を自身の肌で感じて欲しいと思う。

■第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会学生参加支援

【日 時】令和6年6月8日(土)～9日(日)

【場 所】アクトシティ浜松(浜松市)

【参加者】学生6名(2年1名 3年1名 4年3名 5年1名)

■第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加して

医学科4年 篠田 航平さん 新城 圭史郎さん

医学科3年 岡 日輪乃さん

医学科2年 天願由依菜さん

私たち地域医療研究会は、浜松市で開催された第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に参加し、学生セッションでポスター発表を行った。

私たちは「アルコール依存症」をテーマに取り組んだ。内容は、浜田市金城町で開催された産業祭「さざんか祭り」のイベントとして行った健康増進活動の報告、来場者を実施した「AUDIT」(アルコール依存症スクリーニングテスト)及び、社会的孤立調査アンケートの結果を統計的に分析したものを発表した。



学会当日は、弥栄でフィールドワークに取り組んでいる鳥根大学の学生とも意見交換を行い、大変有意義な時間を過ごすことができた。事前学習の場では、波佐診療所や西川病院の先生方々に多大なご指導ご協力をいただきました。また、スタッフの方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。



■「Western Carnival」学生参加支援 ～地域医療を支えるみんなとの繋がりを～

【期 間】令和6年8月31日(土)～9月1日(日)

【場 所】済生会江津総合病院他

【参加者】学生7名



■「オキフェス2024」学生参加支援 ～総合診療医養成と地域医療の魅力を学ぶ会～

【期 間】令和6年9月22日(日)～9月23日(月)

【場 所】隠岐の島町 隠岐病院

【参加者】学生:9名



■「さざんか祭り」学生参加支援

【期 間】令和6年11月2日(土)～11月3日(日)

【場 所】浜田市金城町 ふれあいジムかなぎ

【参加者】学生:14名



■地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)&第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会報告会

【期 間】令和6年11月26日(火)18:00~19:30

【参加者】学生31名(1年生7名、2年生7名、3年生12名、4年生3名、5年生2名、6年生3名)
教員4名、実習先指導医2名

【概 要】地域医療体験実習Ⅱには31名、学会報告会には4名が参加した。実習は島根県内外の5施設で実施された。報告会では、医療法人ももたろう往診クリニックの小森栄作先生と波佐診療所の佐藤優子先生がWebで参加され、佐野教授から「振り返り報告を行い実習は完結する」とのお話があった。

プライマリ・ケア学会では「アルコール依存症」をテーマにしたポスター発表の報告が行われた。地域医療実習報告では「地域医療は住民が支えて育ててくれる」という言葉に感銘を受け奮起したと報告があった。学生たちが実習を通して得た多くの経験や学びの報告を聞くことができ、非常に有意義な時間となった。

当日参加できなかった学生は別日に個別報告を行った。



⑩ 大学院教育

島根大学大学院医学系研究科医科学専攻(博士課程)(修士課程)

研究者育成コース 総合診療・地域医療コース 地域医療支援コーディネータ養成コース

指導教員:佐野 千晶 客員研究員:太田 龍一 中畑 典子 大学院生:19名

【D4】

天野 志保	池田 啓孝	内藤 祐美	西倉 希
毛利 直人	山根 史子	松田 親史	

【D3】

田中 悠大	阿部 香澄	藤森 太一	堀西 祐多
馬淵 沙弥佳	馬淵 寛也		

【D2】

小田川 誠治	小原 潤也	北 和也	山内 綾子
--------	-------	------	-------

【D1】

佐藤 裕

【M1】

宗田 莉奈

「2024年度 島根大学医学研究科大学院 博士課程 Ph.D学位取得」



毛利 直人 医師



天野 志保 医師



阿部 香澄 医師

おめでとうございます。

2 学生支援等

① 地域医療セミナー

第1回 地域医療セミナー

【テーマ】地域で働くこと

【日時】令和6年4月25日(木)18:00～19:00

【講師】浜田市国民健康保険 あさひ診療所
所長 上野 伸行 先生

【参加者】22名(学生14名)

【概要】先生は東京葛飾区のご出身で、島根大学医学33期生で卒業し、島根県で総合診療医になられた。

先生は診療所の役割について「困ったときに何でも相談できる場所」「患者と専科の架け橋、患者と地域の架け橋、患者と行政の架け橋」「住民に安心を与える」事と、患者にとって本当の幸せは何かを志向しながら診療にあたるのが大切と話された。

さらに、事例紹介を通し学生とディスカッションをしながら、「総合診療医として働くことは地域社会に貢献する素晴らしい機会である。地域の人々との信頼関係を築きながら、幅広い病気や健康問題に対処、地域全体の健康と福祉に貢献できる。地域のニーズに応じて、予防医療や健康教育、患者のケアマネジメントなど、様々な役割を果たすことができる。」と熱く語られた。



第2回 地域医療セミナー

【テーマ】人生の岐路に出会いの意味を知る

～寄生虫が教えてくれる、それは人と人との相互作用の賜物～

【日時】令和6年5月18日(土)15:00～17:00

【講師】福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座
前教授 福島 哲仁 先生

【参加者】37名(学生12名)

【概要】先生は島根医科大学3期生で、地域医療研究会のOBである。今回は特別講演として、人生の中で岐路となった出会いを中心に話し頂いた。高校の恩師、大学で地域医療研究会、予防医学の教授、海外留学への進言をしてくれた恩師、研究者へと導いてくれた留学先の教授など、岐路には出会いがあったそうである。

後半はかつて研究の中心であった寄生虫のお話をされた。寄生虫と宿主の相互作用により寄生虫の虫も変わることを教えていただいた。

最後に「寄生虫と宿主にも相互関係があるように、人の人生にも人と人の相互関係があり、これまで出会った恩師や地域研究会の仲間との出会いがこれまでの軌跡に繋がった。また、それぞれの岐路で選択した道を一生懸命取り組むことが重要」と締めくくられた。



第3回 地域医療セミナー

【テーマ】認知症の緩和ケアアプローチ

【日時】令和6年5月22日(水)18:00~19:00

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長
同オレンジほっとクリニック 東京都地域連携型認知疾患
医療センター長 平原 佐斗司 先生

【参加者】18名(学生 11名)

【概要】先生は緩和ケアに関する臨床及び教育活動で多くの貢献をなさっており、緩和ケアに関する講演活動や執筆活動を通じ、多くの医療従事者や一般の人々に情報提供を行われている。

今回は、「認知症の緩和ケアアプローチ」をテーマに、認知症の緩和ケアとそのニーズ、痛みの軌跡と予後、認知症の人が体験しているつらさ、認知症の人の意思決定支援についてお話しされた。

その中で、認知症患者の苦痛は表出されにくく過小評価され易いこと。苦痛の存在を積極的に疑い、苦痛の客観的評価法を用い多職種で評価することが必要であると話され、苦痛の総合的評価方法を説明いただいた。

最後に、「認知症の方であっても、本人には意思があり、意思決定能力を有するものとして扱うことが原則。認知症の人の認知能力に応じて理解できるよう説明した上で、表明された意思は尊重されなければならない」と締めくくられた。



第4回 地域医療セミナー

【テーマ】一人の医学生が一人の医師となった軌跡

何ができて、何が必要とされて、何を成したかったか
-地域も国も海外も、やるべきことは何も変わらない編-

【日時】令和6年7月3日(水)18:00~19:00

【講師】京都大学附属病院 総合臨床教育・研修センター
准教授 兼 しまね総合診療センター
副センター長 和足 孝之 先生

【参加者】51名(学生 30名)

【概要】先生は総合診療のトップランナーとして数多くの医学生や総合診療医の育成に尽力されている。離島での症例経験や東南アジアでの国際医療、海外留学など、数多くの経験を積む中で苦悩や困難に直面してこられたが、いつも前向きに乗り越えてこられた。

「Neural GP network立ち上げ時は、しっかりビジョンを描き、綿密なアクションプランを作成して成功につながった」とセンター設立当時を振り返られた。後半では医学生との熱いディスカッションが行われた。「物事は『嘲笑される』『反対される』『同調される』という3段階を経て成功する」というメッセージが印象的であった。セミナー終了後は和足先生のもとにたくさんの学生が殺到し、目を輝かせて総合診療医の魅力を語り合う姿が見られた。





第5回 地域医療セミナー

【テーマ】褥瘡×在宅×多職種連携

～在宅の実情と多職種の役割を理解しよう～

【日時】令和6年10月8日(火)18:00～19:00

【講師】株式会社LIFE CREATE Grow 訪問看護ステーション

代表取締役 佐藤 千晃 先生

おおた皮膚科クリニック

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 清水 美穂子 先生

【参加者】46名(学生 17名)

【概要】今回の講演では、褥瘡ケアにおける多職種連携と在宅療養支援について実際の症例を基にお話し頂いた。清水先生は、認定看護師の立場から褥瘡の要因除去や対策、在宅ケアの重要性とチーム連携の必要性を示された。また、発赤が褥瘡の重要なパラメーターであることを指摘し、在宅での観察方法やケアの統一についても提言された。佐藤先生は作業療法士として、褥瘡の発生要因を体位や創面から分析し、予測の重要性を述べられた。さらに、「客観的な評価指標の定着」「ケア方法の統一」「主治医との情報共有の難しさ」「地域における特定行為の未実施」などの在宅ケアの課題を提言された。

この講演は、学生や医療従事者にとって、多職種連携の現場での重要性を学ぶ貴重な機会となり、またお二人が島根大学病院で働かれていた現役時代の姿を懐かしく思い出す時間となった。



第6回 地域医療セミナー

【テーマ】「地域医療の魅力」

急性期医療と地域医療の視点、役割の違いについて

【日時】令和6年12月20日(金)18:00～19:00

【講師】気仙沼市立病院附属本吉医院

院長 齊藤 稔哲 先生

【参加者】22名(学生14名)

【概要】先生には5年振りに対面で講演をしていただいた。「急性期医療は重篤な疾患の治療や新技術の開発を担い、地域医療は慢性疾患や終末期ケアを通じて住民の生活を支える役割がある。しかし、どちらも単独では成り立たず、相互協力が重要である。

少子高齢化が進む中、地域医療の役割は増しており、納得できる人生を共に築くことが求められている。」また、「地域医療には生き方や死、家族、地域の在り方を考える哲学が必要であり、『治すことも支えることもあきらめない姿勢』で地域住民に元気を届ける存在でありたい」と熱く語られた。

終了後は、学生から活発に質問があり、より交流を深める事ができた。



第7回 地域医療セミナー

【テーマ】「救急救命士とは」

【日時】令和7年1月24日(金)18:00~19:00

【講師】広島国際大学 保健医療学部 救急救命学科
教授 安田 康晴 先生

【参加者】30名(学生6名)

【概要】先生は、出雲市ご出身で、病院前救急の分野における第一人者である。

まず冒頭では、世界と日本の救急医療および心肺蘇生法の歴史について説明され、続いて昭和時代に始まる消防救急体制の整備や、救急救命士法の制定とその改正の背景について触れられた。また、医師の指示のもとで行われる救急救命処置やメディカルコントロール体制の重要性についても熱く語られた。さらに、今後の救急救命士の新たな役割や可能性、チーム医療の重要性についても議論を展開され、医学生・看護学生・消防職員間で活発な意見交換が行われた。

最後に医学生に対して「お医者様ではなく、良いお医者さん」になってくださいとメッセージが送られた。



第8回 地域医療セミナー

【テーマ】医師として「診療所に来ない人のことも考える」
母親として「いろいろあった次男のこと」

【日時】令和7年2月12日(水)18:00~19:00

【講師】浜田市国保診療所連合体 波佐診療所
所長 佐藤 優子 先生

【参加者】34名(学生20名)

【概要】先生は東京のご出身で、現在浜田市の波佐診療所にご勤務である。恩師の「診療所に来ない人こそ問題を抱えている。そんな人こそ考慮するべき」という教えに従い、地域医療を支える実践をされている。地域医療では、様々な事情で医療機関にアクセスできない人々を意識し、地域包括ケアの視点を持つことが重要であると感じた。また、地域課題を話し合う「波佐・小国地域医療等課題検討協議会」や、住民主体の無償ボランティアタクシーの実現にも感銘を受けた。

さらに、医師として働きながら育児や家庭を両立させるための工夫についてお話され、夫婦で地域医療に従事する医師の働き方を知る貴重な機会となった。



② キャリアセミナー

第1回 キャリアセミナー

【テーマ】 Acute Care Surgeryの魅力
～離島出身の私が選んだ道～

【日時】 令和6年4月10日(水)12:15～12:45

【講師】 島根大学医学部附属病院高度外傷センター
講師 下条 芳秀 先生

【参加者】 42名(学生30名)

【概要】 先生は長崎県壱岐市の離島出身である。初期研修中に外傷診療に関するガイドラインに次々と触れ、魅力を感じ積極的に研修等へ参加された。その経験から外科系救急医になりたいという思いが強

まり、腫瘍外科を経て救急・集中治療を学びに行かれたそうである。学んでもやはり悔しい思いをする症例を抱えて悩んでいた頃、ACSという概念がアメリカで提唱された。島根大学で初のACS講座ができる話が立ち上がり、心からワクワクしたと当時を振り返られた。

先生はキャリアについて外科の恩師、ACSの立ち上げメンバーである同僚医師等との「出会いで完成した」と述べられた。最後に、アドバイスとして人との出会いを大事に、チャンスをもたせるように『常に主体的であれ』と聴講者の背中を押して締めくくられた。



第2回 キャリアセミナー

【テーマ】 女性外科医のキャリアと家庭の両立について
～憧れの仕事をあきらめないために～

【日時】 令和6年5月21日(火)12:15～12:45

【講師】 島根大学医学部 消化器・総合外科医
助教 高井 清江 先生

【参加者】 17名(学生13名)

【概要】 先生は、内視鏡技術認定医をはじめ専門医資格を持ち、現在は外科の指導医としても活躍されている。外科医でありながら、二人の子育ても経験しつつキャリアを積まれてきた。育休復帰後は大変な時代だったと振り返るが、それでも続けてきたからこそ現在の自分があるとお話しされた。また、外科のイメージとして体力は必要なのか?女性医師お断りの雰囲気は?ライフイベントは?など気になる学生によく聞かれることを答えてくださった。

Take home messageとして「人生は自分のものであり何もせずに諦めるのはもったいない、やりたいことはやってみよう」と話された。外科へのハードルが低くなり外科医を目指す学生も増えたのではないかと感じた。



第3回 キャリアセミナー

【テーマ】いろいろなところに行って知り合いを増やしましょう

【日時】令和6年6月3日(月)12:15~12:45

【講師】鳥根大学医学部眼科学講座

教授 谷戸 正樹 先生

【参加者】25名(学生16名)

【概要】先生は6年次の臨床実習で当時の教授から熱心な勧誘を受け、眼科学講座に入局された。卒後の基礎研究で「網膜光障害の機構」「光ストレス応答防御機構」を発表。早期緑内障に対する「低侵襲緑内障手術谷戸氏トレバクロトミーマイクロフック」制作、更に「内視鏡的毛様体光凝固装置」を開発し、22年4月機器承認、24年6月診療報酬点数加算の業績を残された。

先生を緑内障治療の道へと導いたのは、恩師・千原先生である。経験を重ねる中で「治療して終わりにせず経過も評価しては」と助言を受けられた。これは谷戸先生が執筆された数ある論文テーマの根源であり、若手医師たちにも術後評価の重要性を伝えておられる。

最後に「色々な所に出向き、出会い、研究や経験をした事で、医師としての幅広さや多様性を学べる」と締めくくられた。



第4回 キャリアセミナー

【テーマ】地方大学基礎教授の挑戦

【日時】令和6年7月18日(水)12:15~13:15

【講師】鳥根大学 新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター

副センター長 浦野 健 先生

【参加者】25名(学生6名)

【概要】鳥根大学に就任するまでの軌跡についてお話しください。長崎大学で学生時代はテニスに明け暮れ、卒業後に長崎大学外科へ入局。様々な関連病院で消化器外科医として自己研鑽を積まれた。俗世間を忘れ病院に泊まり込み、救急患者の全て治療にあたるという生活を送られていた。消化器外科医であったが医療の可能性を広げ、多くの人を救いたいとの思いで更に基礎研究へ進まれ、海外留学で研究者として多くの業績をあげられた。その後、恩師との縁があり名古屋大学生化学教室助手から助教授を経て、鳥根大学病態生化学教授とされた。

学生へのメッセージとして「自分が何をやりたいかということをしっかり考え、自分の置かれた環境を最大限利用し、全力で仕事ができるような人でtopを目指してほしい」と語られた。とてもお話しが面白く、どんな状況でも楽しさを見出し取り組まれているのが印象的であった。





第5回 キャリアセミナー

【テーマ】島根出身で何が悪い？

「～島根から神戸へ、そして再び島根へ戻ってきた

循環器内科医の道～」

【日時】令和6年9月13日(金)12:15～12:45

【講師】島根大学医学部 循環器内科
診療助教 岡田 大司 先生

【参加者】21名(学生 10名)

【概要】先生は本学の卒業生で初期研修を当院で受け、後期研修を約1年間神戸市立医療センター中央病院で受けられた。

先生は卒業当初、整形外科医を志されていたが、初期研修の最後に受けた循環動態の研修で虚血性心疾患に対するカテーテル治療の面白さや、やりがいを感じられ、そこから循環器医を目指された。神戸では島根で経験し得ない学びと、今日に繋がる貴重な出会いを得られたそうである。

「準備はしておこう。チャンスはいつか訪れる」「いつでもチャンスを掴めるよう努力し続けることが成功に繋がる」と学生にメッセージを送られた。

また、タイトルの“島根出身で何が悪い？”の先生の回答は「悪くない」であった。自分次第でどこでも成長できる。基礎を作って外に飛び出すのも悪くない。常に準備しておくことが大切であるとまとめられた。



第6回 キャリアセミナー

【テーマ】私を動かした、たくさんの言葉

【日時】令和6年10月22日(火)12:15～12:45

【講師】島根大学医学部 AYA世代サポートセンター・医療的ケア児支援センター長 安田 謙二 先生

【参加者】27(学生19名)

【概要】今回、先生の豊富な経験に基づいた「言葉」の力について深く学ぶことができた。先生は、言葉が持つ力、そして言葉が人々をどのように動かすかについて、自身の経験を交えてお話された。

学生時代に同期生の一言がきっかけで小児科を選択された先生は、国立循環器病センターでの研修中、上司の「仕事は楽しく」という言葉に励まされ、困難を乗り越えられたそうである。その後も、言葉の力を信じて、様々な挑戦を続けて来られた。

講演を通して、先生は「言葉に対して、素直で謙虚な気持ちで耳を傾け、そこにある思いを見出す」「正しい言葉で、正しく思いを伝えるように心掛ける」という2つの重要なメッセージを伝えられた。このメッセージは、私たちの今後のキャリアにおいて、大きな指針になると思われる。

先生の言葉の一つ一つが、私たちの心に深く響き、使命感と責任感を改めて感じさせて頂くことができた。



第7回 キャリアセミナー

【テーマ】仕事も家庭もケセラセラ
 【日時】令和6年11月18日(月)12:15～12:45
 【講師】島根大学医学部 法医学講座
 助教 木村 かおり 先生

【参加者】36名(学生22名)

【概要】先生は小学校まで大阪で過ごし、中高はコネチカット州、大学はマサチューセッツ州で生物学を学び研究を行われた。学生時代、アメリカの作家マイケル・クライトンの著書『Jurassic Park』を読んだことがきっかけで生物学に興味を持ち、解剖学を好きになり、法医学の研究に進むようになったそうである。

研修医時代から出産・育児を経験され、現在、5人の子供のお母さんでもある。仕事と5人の子育ての日常生活は多忙であるが、買い物はネットスーパーを活用して時間を作り、休日は子供さんの野球活動を中心に楽しく生活をしているとお話された。

大変な日々を「ケセラセラ」「なるようになる」と困難や未来に対して楽観的で、前向きな姿勢で乗り切っておられ、先生の強さと頼もしさに女性として大いに勇気を頂いた。



第8回 キャリアセミナー

【テーマ】「学生時代の“難しい”を乗り越える：
 免疫学×膠原病・リウマチ内科の世界」
 【日時】令和6年12月11日(水)12:15～12:45
 【講師】島根大学医学部 膠原病内科
 教授 一瀬 邦弘 先生

【参加者】26名(学生13名)

【概要】先生は長崎大学を卒業後、SLE患者の治療経験を通じて膠原病に興味を持たれた。その後、岡山大学大学院で学び、ハーバード大学への留学で腎臓病の研究を深められ、SLEやループス腎炎に関する研究を推進された。帰国後は、SLEが多臓器に影響を与えることや、マラリアとの類似性、耐性遺伝子が自然選択された結果として自己免疫疾患が増加した可能性に注視しているとの事であった。

「SLEではない健常者と変わらない社会生活を送る」ことを目指す「SLEの社会的寛解の維持」が治療の最終目標であると話された。また、患者から学ぶ姿勢や臨床現場での再学習の重要性を強調し、「情熱と好奇心を持ち続け、臨床で学び直してほしい」と後進へのエールを送られた。





第9回 キャリアセミナー

【テーマ】最先端の細胞療法で未来を拓く!

血液内科医として患者さんと共に歩む ～私の挑戦～

【日時】令和7年1月29日(水)12:15～12:45

【講師】島根大学医学部 血液内科(第三内科)

講師 高橋 勉 先生

【参加者】34名(学生16名)

【概要】先生は島根大学を卒業後、第三内科に入局。現在、県内で数少ない血液内科医として活躍されている。先生はある白血病患者との出会いをきっかけに、東京大学で臍帯血移植の研修を受け島根に帰郷。臍帯血・骨髄移植の体制を整え、2005年には当院で臍帯血移植の第一号を実施した。その後、島根大学医学部附属病院で全ての血液疾患が治療可能となり、治療体制の発展に大きく貢献している。

先生は地域医療への貢献について「地域でも専門性の高い良質な医療を届けられる人材になること、次世代を担う医療人を育てる人材になること」と語り、そして、「自分の興味ある分野にチャレンジし、周囲から必要とされる人材になってください」とメッセージを送られた。



第10回 キャリアセミナー

【テーマ】My memorable emails ～心に残るメール集～

【日時】令和7年2月19日(水)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

教授 鬼形 和道 先生

【参加者】47名(学生20名)

【概要】先生はこれまでの歩みを、小児科医らしく成長曲線に例えて振り返られた。「奇跡の4期生」として卒業後、地元群馬に戻り、学会での発表をきっかけに2009年に母校である島根大学へ復帰された。その後、教育に尽力され、優良教育実践賞を受賞された。

「心に残るメール集」には、恩師や指導した学生・研修医との交流の様子が綴られ、先生が多くの学生に慕われていることが伝わった。医学部長としては、COVID-19を経験し、学生の意見を尊重した教育体制を築かれた。その成果として「島根大学に来てよかった」との学生の声が出ていたと思われる。

最後に「前傾姿勢」「友人を増やす」「コミュニケーション力向上」の重要性をメッセージとして残された。



③ 島根県公衆衛生系専門職と学生・研修医の交流勉強会 (ベ→スアッぷ)

若手保健専門職の自主的勉強会にシニア組が加わり、毎月第3土曜日に開催をしている。保健活動推進のために必要な資質の向上を目指すとともに、職員通しの交流を通して他職種に対する理解を深める。また、公衆衛生分野に関心のある学生・研修医に参加を呼び掛けることにより、人材確保にもつなげることを目的としている。

島根県公衆衛生系専門職と学生・研修医の交流勉強会

日	時間	内 容	講 師	出席者 (学生)
4月13日	9:00 11:00	4年間のコロナ対応を振り返る	島根県健康増進部 D.V.M.、Ph.D技監 田原 研司 先生	14(4)
5月18日	15:00 17:00	地域医療セミナー休日特別編 人生の岐路に出会いの意味を知る	福島県立医科大学衛生学・ 予防医学講座 前教授 福島 哲仁 先生	37(12)
6月15日	9:00 11:00	浜田圏域における精神障がい者 ピアサポーターの取り組みについて	島根県浜田保健所 健康増進課 保健師 未森 直子 先生	15(5)
8月24日	9:00 11:00	「保健活動を振り返る ～つながりを大切に～」	島根県健康推進課 統括保健指導監 加藤 幸子 先生	11(0)
11月16日	9:00 11:00	超高齢化社会における 保健活動のパラダイムシフト	松江・島根県共同設置 松江保健所 所長 竹内 俊介 先生	9(0)
12月21日	9:00 11:00	公衆衛生の医療者のキャリア ～国と県の経験を通して～	松江・島根県共同設置 松江保健所 医療専門員 溝上 悠介 先生	6(1)
1月18日	9:00 11:00	公衆衛生専門職のためのデザイン講座	保健師オフィスyochahi 大久保 宗太郎 先生	20(2)
2月14日	9:00 11:00	児童相談所の保健師の役割 ～地域支援編～	島根県中央児童相談所 主任保健師 廣野 真理子 先生	5(1)
3月15日	14:30 15:30	ソーシャルキャピタルと地域活動について	松江・島根県共同設置 松江保健所 所長 竹内 俊介 先生	20

④ ビデオセミナー

学生が幅広く勉強できる機会を増やすだけでなく、職員の医学知識のブラッシュアップも目的として、毎週火曜日の12時から30分程度、地域医療支援学講座スタッフルームにてDVDを上映している。令和6年度上映分を紹介する。

上映日	タイトル	シリーズ名	講師
4月2日	第1回 熱性けいれん	Dr.宮本の ママもナットク! 小児科コモン プラクティス	宮本 雄策 (川崎市立多摩病院 小児科部長)
4月9日	第2回 運動発達の遅れ		
4月16日	第3回 母乳育児と体重増加不良		
4月23日	第4回 発達障害		
4月30日	第5回 食物アレルギー		
5月7日	第6回 子どものかぜ薬		
5月14日	第1回 トリアージのABC	こどものみかた シミュレーションで 学ぶ見逃せない 病気(上巻)	茂木 恒俊 (飯塚病院 総合診療科) 児玉 和彦 (こだま小児科/ 和歌山生協病院)
5月21日	第2回 どうする?夜間の急な発熱		
5月28日	第3回 あわてない!熱性けいれん		
6月4日	第4回 もう大丈夫!子どもの喘鳴	こどものみかた シミュレーションで 学ぶ見逃せない 病気(下巻)	土肥 直樹 (相模原市 国民健康保険 内郷診療所 所長)
6月11日	第5回 これですっきり!嘔吐のみかた		
6月18日	第6回 子どもの腹痛 便秘と重症疾患の見極め!		
6月25日	第1回 肩こりで帰してはいけない頸部痛	Dr.小松の とことん病歴ゼミ	小松 孝行 (順天堂大学医学部 附属練馬病院 救急・集中治療科)
7月2日	第2回 パニック障害の再発?それとも…		
7月9日	第3回 その「だるい」本当はいつから?		
7月16日	第4回 ちょっと尻もちをついただけで骨折?		
7月23日	第5回 えっ?25歳男性が母親と受診		
7月30日	第6回 「風邪ひいちゃったみたい」の訴えの危うさ		
9月3日	第1回 がん総論	Dr.大山の がんレク! すべての医療者に 捧ぐがん種別 薬物療法講義 上巻	大山 優 (亀田総合病院 腫瘍内科 部長)
9月10日	第2回 肺がん		
9月17日	第3回 乳がん		
9月24日	第4回 胃がん		
10月1日	第5回 大腸がん		
10月8日	第6回 副作用&合併症マネジメント		

上映日	タイトル	シリーズ名	講師
10月15日	第7回 頭頸部がん	Dr.大山の がんレク! すべての医療者に 捧ぐがん種別 薬物療法講義 下巻	大山 優 (亀田総合病院 腫瘍内科 部長)
10月22日	第8回 食道がん		
10月29日	第9回 肝胆膵がん		
11月5日	第10回 婦人科がん		
11月12日	第11回 泌尿器がん		
11月19日	第12回 造血器腫瘍		
11月26日	第13回 脳腫瘍		
12月3日	第14回 緊急症		
12月10日	第15回 緩和ケア		
12月17日	第1回 Step Beyond ACLS 1 心肺蘇生ガイドライン2015 「心肺停止で救急搬送の76歳男性」	Dr.林の 笑劇的救急問答 Season12 上巻	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院 総合診療部 教授)
12月24日	第2回 Step Beyond ACLS 2 心肺蘇生ガイドラインPart2 「死戦期呼吸を呈する56歳男性」		
1月7日	第3回 Advance ECG 1 忘れてない?12番めの誘導aVR 「持続する心窩部痛63歳女性」		
1月14日	第4回 Advance ECG 2 右脚ブロックのツボ 「今年3回目の失神を起こした75歳男性」		
1月21日	第1回 創傷処置1 まずは洗おう!そうしよう! 「左前腕部に浅い切創の30歳男性」	Dr.林の 笑劇的救急問答 Season12 下巻	
1月28日	第2回 創傷処置2 痛くない注射 「創縫合前に緊張する25歳女性」		
2月4日	第3回 高血糖救急1 腹痛なら胃腸炎?それダメ! 「腹痛と頻回嘔吐の5歳男児」		
2月18日	第4回 高血糖救急2 インスリン一発!それダメ! 「意識障害で救急搬送の78歳男性」		
2月25日	第1回 腫瘍救急1 FNってなんだ? 「がん化学療法中に全身倦怠感を訴える2人の患者」	Dr.林の 笑劇的救急問答 Season13 上巻	



⑤ キャリアガイダンス

■1年生

【日 時】令和6年5月13日(月)17:00~18:00

【場 所】島根大学医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

【主 催】一般社団法人しまね地域医療支援センター

【参加者】13名

【概 要】地域枠等の奨学金を受給する新入生を対象に開催された説明会では、まず佐野教授が医師になるまでの流れや6年間のカリキュラム、臨床・専門研修について説明し、「6年間は短く、かつハードだが応援する」とエールを送られた。次に、しまね地域医療支援センターの幸村事務局長がキャリア形成プログラムについて解説。その後、卒後3年目の小児科医小川桃子先生が自身のキャリア形成や、小児科を選んだ経緯をお話しされ「仲間を増やし、今を楽しんで、低学年で学んだことは働き始めてからも大切」とアドバイス。「焦らず選択し、島根県内で基礎知識を積んでから外へ出るのもひとつの道」とキャリアプランのアドバイスをいただいた。



■5年生

【日 時】令和7年3月18日(火)17:30~18:30開催予定

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階 共通カンファレンスI

【主 催】一般社団法人しまね地域医療支援センター

【参加者】学生11名予定

⑥ 学生個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談ならびに必要なに応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談や必要に応じて指導を行っている。

令和6年度面談実施者のべ数：153名(3月31日時点)

令和6年度地域枠等学生数

()は奨学金なし

		学生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	一般	5	7	8	6	4	10	40
	学士	0	0	0	1	2	2(2)	5(2)
緊急医師確保対策枠		6	5	8	8	8	3	38
県内定着枠		7	9	2	6	6	4	34
地域枠等合計		18	21	18	21	20	19	117
奨学金のみ		0	0	1	1	0	4	6
奨学金のみを含めた合計		18	21	19	22	20	23(2)	123(2)

⑦ サークル活動支援

当講座では地域医療に関連したサークル活動の応援・支援を行っている。

■地域医療研究会 医療機関実習

No.	場 所	期 間	人数
1	社会医療法人清和会 西川病院	令和6年4月2日～4月4日	1名
2	雲南市立病院	令和6年8月1日～8月2日	1名
3	医療法人ザイタック ももたろう住診クリニック	令和6年8月1日～8月2日	2名
4	医療法人ザイタック ももたろう住診クリニック	令和6年8月14日～8月15日	2名
5	浜田市国保診療所連合体 波佐診療所	令和6年8月18日～8月21日	3名
6	浜田市国民健康保険 弥栄診療所	令和6年8月18日～8月19日	1名
7	社会医療法人清和会 西川病院	令和6年8月22日	1名
8	さざんか祭り(波佐診療所)	令和6年11月2日～11月3日	15名
9	浜田市国保診療所連合体 波佐診療所	令和7年3月10日～3月12日	5名



⑧ 個人活動支援

■学生企画×地域医療セミナー特別編

【テーマ】地域の診療をしてみよう

【講師】富山市まちなか診療所 管理者・医師
三浦 太郎先生

【日時】令和6年5月29日(水)18:00～19:30

【場所】鳥根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】25名(学生14名)

【概要】令和6年5月29日(水)、富山市まちなか診療所の三浦太郎先生をお招きして、「“地域”の診療をしてみよう!」と題して、行政と臨床の両面から地域医療についてお話しいただいた。

一番印象に残っているのは、温泉地での大学生の急性アルコール中毒問題への対応と、その基盤となるCOPC(Community Oriented Primary Care)アプローチについてのお話です。医師が病院から一歩足を踏み出すことで、人と人との繋がりが少しずつ生まれ、地域全体が緩やかに繋がるプライマリ・ケアチームとなっていくという視点は、これから医師として地域医療が抱える問題にどのように取り組んでいけばいいのかを考える上で大きなヒントとなった。

医療だけでなく、地域での暮らしについても楽しそうにお話されていて、地域医療の楽しさ・面白さについて触れることができた90分となった。(医学科4年生 佐々木大輔さん 記)





⑧ 感染制御部との共催企画

このセミナーは、しまね地域医療支援センターが実施する『令和6年度研修・指導体制魅力化事業 助成事業』の一環として、感染制御部との共催で開催したものであり、医学生・研修医・医療従事者を対象に各分野の講師よりご講演頂いた。

【テーマ】抗菌薬の使い方が変わる！

ASTや若手医師のための感染症診療攻略法

【日時】令和6年11月11日(月)18:00～19:00

【講師】鹿児島生協病院 副院長 内科部長 感染症内科科長
山口 浩樹 先生

【参加者】62名(学生24名)

先生は島根大学医学部卒業生であり、現在感染症内科医としてご活躍中である。

感染の発症から治療の経過をRPG「ドラゴンクエスト」に例えながら、面白おかしく、わかりやすくお話しをされた。原因菌を確定する検査や治療薬選択の重要性を説き、抗菌薬は適切な種類と期間で使用することの必要性を強調された。

また、感染症診療の内容を分かりやすくまとめられた書籍『まとめ抗菌薬』を創刊され、臨床医学系ランキングで上位を獲得するなど注目を集められた。

「抗菌薬を正しく使うことが未来の医療と子供たちを守る」と述べられ、これからも感染症診療について発信を続けることで誰かの役に立ちチャンスをつかんで行くことが大切と話された。



【テーマ】抗菌薬の原則

【日時】令和6年11月29日(金)18:00～19:30

【講師】感染症コンサルタント 青木 眞 先生

【参加者】53名(学生21名)



⑨ 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

また、しまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

		医 師					医師計
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目 以 降	
地域枠	(一般)	12	9	10	5	54	90
	奨学金なし(再掲)		2			10	12
	(学士)				1	1	2
	奨学金なし(再掲)						0
緊急医師確保		5	5	8	5	26	49
奨学金なし(再掲)						1	1
県内定着		7	10	9	5	20	51
奨学金なし(再掲)				2	1	1	4
地域枠等合計		24	24	27	16	101	192
奨学金なし(再掲)		0	2	2	1	12	17
奨学金のみ		6	7	9	6	46	74
奨学金のみを含めた合計		30	31	36	22	147	266
奨学金なし(再掲)		0	2	2	1	12	17

3 地域医療交流サロンの取り組み

① 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここは現在みらい棟2階の当講座スタッフルームの向かいにあり、地域枠推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、学生と当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作り、地域医療のモチベーションを維持することに大いに役立っていると言える。さらに「地域医療交流サロン」には各学会誌や島根大学関連情報誌の掲示に加え地域医療、公衆衛生、統計学等に関する1219冊の蔵書があり利用者も多い。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1階に設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報誌を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。



1階 みらいラウンジ



2階 地域医療交流サロン

② 地域枠等特別選抜枠新入生説明会・意見交換会

【日時】令和6年4月2日(火)18:30～20:00

【場所】島根大学医学部講義棟1階国際交流ラウンジ

【参加者】52名(学生24名)

【概要】地域枠等特別選抜枠の新入生説明会・意見交換会を開催した。学内からは石原医学部長、椎名病院長、島根県からは安食健康福祉部長に出席を賜り、ご挨拶を頂いた。

医学部長は「島根大学医学部は全国でも屈指の地域医療教育を行っている大学で、学生の皆さんを支援します」と述べられ、病院長および健康福祉部長からも温かい祝福のメッセージが送られた。

続いて新入生たちも緊張した面持ちながら登壇し、抱負を述べ決意を新たにした。先輩2年生から6年生総勢10名からは、自分たちの経験を振り返り、その過程で学んだことや成長したことをもとに新入生にエールを贈った。将来、島根の医療を担う14名の新入生と先輩学生、そして支援する側が一堂に会し、希望に満ち溢れた賑やかな会となった。



③ 地域枠等特別選抜枠新入生鳥根県庁表敬訪問

【日 時】令和6年8月28日(水)11:20～11:50

【場 所】サンラポーむらくも

【参加者】鳥根大学学生7名 鳥取大学学生3名
鳥根大学教員4名

【概 要】令和6年度入学の鳥根県のこれからの地域医療を支える医学部1年生が、鳥根県知事丸山達也氏への表敬訪問を行った。県知事からの激励を受け鳥根県の医療への関心を更に高めることとなった。医学生全員が各々の決意を表明し「他の学生の思いを聞き心強かった」「決意表明したことで、これから鳥根で医師になるぞと思いが強くなった」等感想があった。学生達の地域貢献への意欲をさらに高め、病気の治療にとどまらず、患者全体に寄り添う医療を提供したいという思いを共有できたことはとても感動的であった。

丸山知事からの「人と人との繋がりを大切にし、知識と経験を積んでほしい」とメッセージを頂き、さらに1人1人の学生達と県知事が一緒に写真を撮り、和やかな交流ができたことは学生達にとって心に残る経験となった。





④ 松江生協病院・松江市立病院・松江赤十字病院見学

【日 時】令和6年8月28日(水)9:10~15:20

【参加者】島根大学学生7名 鳥取大学学生3名 島根大学教員4名

【概 要】今年度入学の島根大学・鳥取大学の島根県医学生地域医療奨学金貸与学生を対象に希望を募り、松江生協病院・松江赤十字病院・松江市立病院を巡るバスツアーを行った。

松江生協病院では、患者の回復を支援する地域密着型医療の現場を知り、医療の幅広さを実感した。松江赤十字病院では、島根原発から30km以内に位置し、原子力災害に備えた対応を学び、3次救急病院としての救命医療の重要性を強く認識した。松江市立病院では、がん治療に特化したケアや、中四国に4つしかないサイバーナイフの存在を知り、がん治療に対する関心が高まった様子であった。さらに、医師の「患者の不幸をもとに生計を立てることを当たり前にはいけない」との言葉が深く印象に残り、医療の社会的責任と医師の使命感を再認識する機会となった。



⑤ 学生と行政・医療機関との交流

地域から推薦を受けて入学した学生の地域への貢献等モチベーションを維持向上させるための取組みである。県内の行政・医療機関が企画立案し、当講座の教員も参加した。

■ごうつ地域医療交流会2024

【日 時】令和6年8月3日(土)

【出席者】19名(学生4名)



■大田市出身医師、医学生と
大田市・大田市立病院との交流会

【日 時】令和6年8月6日(火)

【出席者】21名(学生8名)



■益田市長と益田市出身の
島根大学医学生・医師との意見交換会

【日 時】令和6年10月11日(金)

【出席者】8名(学生2名)



■浜田の医学生を応援する会

【日 時】令和6年11月15日(金)

【出席者】26名(学生11名)



■雲南市・奥出雲町地域医療交流会

【日 時】令和6年12月13日(金)

【出席者】33名(学生8名)



■隠岐出身者(島根大学医学部地域枠医師等)との
意見交換会

【日 時】令和6年12月15日(月)

【出席者】11名(学生0名)





⑥ 学生間、学生と教員等との交流

■2024年度地域枠等全学年会

【日 時】令和6年11月8日(金)18:30~20:30

【場 所】出雲ロイヤルホテル「高砂の間」

【参加者】46名(学生33名)

【概 要】「地域枠等の全学年会」は6年生の有志が中心となって当講座と連携し、関係機関等の出席もあり開催された。

初めに椎名病院長にご挨拶を頂き、健康福祉部の安食治外部長には乾杯のご発声を頂いた。続いて学年毎に自己紹介が行われ、エピソード紹介には笑いがこぼれる場面があった。オペラの独唱や「乾杯」の歌の披露もあり、和やかな雰囲気の中で進化した。また、卒業生も出席し、自身の現況報告や学生たちへのエールを含めたメッセージが贈られた。回を重ねる毎に、学年を超えた学生の交流の輪が広がり、親交も深まってきている。同期・同窓生・地域枠等の「つながり」を大切にして、夢を持って学生時代を送ってほしいと感じた。



■学年会

【5年生学年会】

令和6年9月27日(金)懇談会

参加者15名(学生10名)



【1年生学年会】

令和6年10月2日(水)ランチ会

参加者11名(学生6名)



【3年生学年会】

令和7年3月4日(火)ランチ会

参加者19名(学生14名)



⑦ 図書・DVDの貸し出し事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する1219冊の蔵書、雑誌、DVDがあり、随時学生・医師等に貸し出しを行っている。

令和6年度 貸し出し総数 書籍:3冊 DVD:1巻

4 地域医療支援等

① 島根大学医学部医学科オープンキャンパス

- 【日時】令和6年8月3日(土)13:30~17:00
 【場所】島根大学医学部臨床講義棟 2F ラーニングcommons
 しまね地域医療センター・地域医療支援学講座コーナー
 【参加者】当日参加者数:284名(高校生162名、保護者122名)
 地域枠入試相談ブース来訪者約20名



② 高大連携

救急医学講座の岩下教授が令和4年から取り組まれている、高校生との交流会に共催として参加した。

横田高校は高校魅力化プロジェクトとして学校、地域、行政が一体となって魅力ある高校づくりに取り組んでおられる。その一環としてキャリア教育があり、今回の高大連携となった。

- 第1回 医療体験
 【日時】令和6年9月27日(金)15:30-17:30
 【場所】国際交流ラウンジ、スキルアップセンター、
 高度外傷センター
 【参加者】20名(高校生8名、大学生7名)

- 第2回 医療体験
 【日時】令和7年2月21日(金)14:30-16:30
 【場所】スキルアップセンター、高度外傷センター
 【参加者】27名(高校生10名、大学生11名)



③ 地域医療支援

■山陰中央新報取材記事について

ポストコロナ時代の医療人養成事業について佐野教授への取材があった。

こちらの投稿をご覧になりたい方は下記URL
 または地域医療支援学講座ホームページへアクセスください。
 アクセス方法:島根大学医学部地域医療支援学講座
www.communityshimane.jp



■島根県内の「地域医療を支える住民団体(6団体)」の活動は、地域医療支援学講座によって支援されている。令和6年6月29日(土)に開催された「地域医療を守り育てる住民活動 in 浜田」の記事が、山陰中央新報に掲載された。

当講座の教授佐野千晶が「地域貢献に自ら資する医師育成に向かって」と題して、基調講演を行った。



■【島根大学医学部】教授に50の質問 地域医療支援学 佐野 千晶 先生

島根大学医学部の公式YouTubeチャンネルにアップロードされた。

本学では魅力ある教員が熱心に教育・研究を行っている。学生と教員の距離が近いのも島根大学医学部の特徴である。本学をより身近に感じていただけたら幸いである。

島根大学医学部WebSite

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/> 島根大学医学部

Instagram https://www.instagram.com/shimane_uni...



島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

④ 島根県健康福祉部医師確保対策室・しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座合同勉強会

島根県の地域医療を担う医師の育成・定着を図るために、島根県健康福祉部医師確保対策室としまね地域医療支援センター、及び当講座の3者で勉強会を行った。

【場 所】みらい棟1階 みらいラウンジ

【開催日】月1回16:00～17:00

【内 容】年間スケジュール、入学卒・奨学金制度の概要、市町村等地域交流会支援事業キャリア形成プログラム等運用支援事業、専門研修プログラム合同説明会、臨床研修制度、地域交流会支援事業、県内病院の地域実習受け入れ状況、臨床研修マッチング、医学生バスツアー、キャリプロの診療科別専門医取得モデル、医師確保計画、専攻医登録状況、医学部入学定員にかかる文科省情報、奨学生の義務履行等。

3者会議実施日

回数	実施日	回数	実施日
第1回	4月23日(火)	第7回	10月15日(火)
第2回	5月21日(火)	第8回	11月12日(火)
第3回	6月18日(火)	第9回	12月10日(火)
第4回	7月16日(火)	第10回	1月10日(火)
第5回	8月27日(火)	第11回	2月18日(火)
第6回	9月17日(火)	第12回	3月18日(火)

⑤ 第15回中四国地域医療フォーラム

【開催日】令和7年2月1日(土)

【テーマ】「卒前から地域医療マインドを育てる」

【場 所】徳島県徳島市 阿波観光ホテル

【主 催】徳島大学大学院医歯薬学研究部

地域・家庭医療学分野／総合診療医学分野

【参加者】中四国各県の地域医療に関わる大学関係者県行政担当・

【概 要】しまね地域医療支援センター職員、地域卒卒業医師・地域卒学生他島根大学からは、教員2名と学生2名が参加した。前日にはプレ集会が開かれ、大学と行政機関が各々の取り組みについて意見交換を行い有意義な時間となった。

本会では「卒前から地域医療マインドを育てる」をテーマに学生も交えて、各大学・県より発表があった。続いて、『学生と大学・行政の地域医療マインドを育てるギャップ』についてグループ討論が行われた。学生からは早期に地域を体験し、住民との交流を通じて医療を学びたいという思いが伝わり、それに応えていく重要性を実感した。来年は山口県にて開催予定であり、また学生と共に参加したいと考えている。



⑥ 統計勉強会

講座内において統計勉強会を行った。

【日 時】第1回 4月24日(水)11:00～12:00

第3回 7月3日(水)11:00～12:00

第5回 1月30日(水)11:00～12:00

第2回 5月7日(水)11:00～12:00

第4回 10月23日(水)11:00～12:00

5 ホームページ・広報誌等による情報発信

※登録者数・更新数は、令和7年3月時点

① ホームページ

今年度はセミナー等のお知らせを**44回**更新した。
HPでは、セミナーのお知らせだけでなく、
大学や行政をはじめとする各種機関からの情報提供や、
実習に関する資料等も掲載している。



② Facebook

今年度は**87回**更新し、フォロワーは**1580名**となった。
医師や研修医など、医療従事者だけでなく、
一般の方からも広く登録いただいている。
ご支援のコメントを頂戴する機会も多く、
講座の活動に関心を寄せられていることが伺える。



③ Instagram

今年度は**61回**更新し、フォロワーは**355名**となった。
また、今年度は動画コンテンツの作成にも取り組み、
注目されるコンテンツ作りに励んでいる。
今後も、学生向けの情報発信を積極的に行っていききたい。



④ 公式LINE

新入生だけでなく、在学生にも登録を呼びかけ、
今年度の登録者数は**358名**となった。
LINEチャットでの情報発信は、メールよりも開封率が高く、
学生と繋がる、重要なツールである。



⑤ 地域医療支援学レター

ニュースレター「We loveちいき」をPR活動の為にこれまで年4回発行していたが、次年度への過渡期として、発行月を改め3回発行した。令和7年度から1回の内容量を増やし3回発行予定である。島根大学地域枠等推薦入学ならびに奨学金受給の全学生、県内保健所、医療機関、全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。

Vol.47



Vol.48



Vol.49



⑥ 地域医療支援学レター掲載「リレートーク」

地域医療支援学レター「We Loveちいき」にリレートークというコーナーを設けている。これから医師となる学生に向けて、県内の医療従事者から地域医療の魅力や課題・病院のPRを含めてメッセージを頂いている。第47回から第49回を掲載する。

Vol.47 リレートーク

第47回 リレートーク

TITLE | 浜田の診療所に来てください!



浜田市国保診療所連合体
波佐診療所 所長
佐藤 優子 先生

医学生のみなさんこんにちは!私は普段、浜田市の最も山奥の地域で子どもから高齢者までのかかりつけ医をしています。地域の方一人一人の幸せを考える中で、病気だけでなく生活も含め患者さん・ご家族をまるごとケアすることはもちろんですが、地域や社会を変えないと何もならないこともあります。そんな時、私達は普段から住民さんと話をしたり、行政と一緒に仕事をしたりしているので、たくさんの人と協力し地域や社会を変えられることもあります。例えば地域の高齢者の外出を、住民さん同士で支え合う「ボランティアタクシー」の仕組みができました。

医学生さんが実習に来られたら、診療所での外来・訪問診療はもちろん、地域活動も主体的にやっていただいています。ぜひ浜田の診療所に来てください!

浜田市国保診療所連合体とは

- 浜田市の4つのへき地診療所と中核病院総合診療科と市役所でグループ診療を行っている総合診療医の集団です。
- 行政とともに作っていく地域包括ケアは私達の特色の一つです。
- 教育にも力を入れており、年間100~200名、小学生~医師、看護師の地域医療実習を受けられています。



浜田市国保診療所連合体 波佐診療所
〒697-0211 島根県浜田市金城町波佐 4441-1
TEL (0855)-44-0001 FAX (0855)-44-0531

Vol.48 リレートーク

第48回 リレートーク

**TITLE | 地域医療の一翼を担う
一民間病院の病院総合診療の実情**



総合病院 松江生協病院
院長
真木 高之 先生

当院では、2021年2月に医療構想をまとめ、「救急・急性期から回復期・慢性期までを準備範囲とする生活支援病院」というミッションを掲げました。昨年度は、1800台超の救急車を受け入れ、数多くの手術やインターベンションをこなしました。その一方で、病気をきっかけに、摂食・嚥下や排泄、移動、会話などといった生活を行う上で欠かせない身体機能に障害が残った方々のリハビリテーションにも力を入れました。また、経済力や介護力の貧困が、生活復帰の支障となっている方々に対し、安心して暮らせる環境を整備するためのソーシャルワークにも積極的に取り組みました。

WHOは、病気の原因には、社会的要因があるとして、SDH(健康の社会的決定要因)という概念を提起しています。病気が治っても、原因となった背景がそのままでは、根本解決にはならないと考え、

病気を治すにとどまらず、病気を引き起こし、生活復帰の障壁となっている要因の解決に、全職員がその専門性を生かし、チームで取り組んでいます。

今年度、病院総合診療医学会の研修認定施設になる予定です。当院の病院総合診療の体験は、医師人生にとって貴重な経験になると思います。実習、研修では是非お待ちしております。



総合病院 松江生協病院
〒690-0017 島根県松江市西津田8丁目8-8
TEL (0852)-23-1111 FAX (0852)-20-7818

Vol.49 リレートーク

第49回リレートーク

TITLE | 浜田の地で一緒に
地域医療を守っていきませんか？



国立病院機構
浜田医療センター
院長
栗栖 泰郎 先生

医学生の皆さん、こんにちは。浜田医療センターは、鳥根県西部の中核病院として、医療法病床365床、運営病床347床で運営しています。当院の特色は、高度急性期病棟(救命救急センター)から、急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟まで、病状の各段階に対応した病棟を有していることと健診センターを有していることです。熱心な指導医と共に、急性期から在宅へ繋ぐまでの診療に携わることができ、専門科の修練だけでなく大切な学びができます。また、15人の認定看護師、4人の特定行為看護師、3人の診療看護師が在籍して各医療チーム活動を牽引しており、医師も各チームから学ぶことができます。このような環境で、共に学び、成長していける医師を求めています。自分が治療に携わっ

た患者さんが、元気に回復して生活されている場面に出会ったり、「あの時は…」と声をかけられたりした時ほど、地域医療に携わることができた喜びを感じることはありません。浜田の地で、一緒に地域医療を守っていきませんか？



国立病院機構 浜田医療センター
〒697-8511 鳥根県浜田市浅井町777番地12
TEL (0855)-25-0505 FAX (0855)-28-7070



⑦ 島大病院ニュース

島根大学医学部附属病院では、医療機関向け情報誌「島大病院ニュース」を発行している。当講座からもコラムを投稿している。令和6年度投稿分を掲載する。

島大病院ニュース vol.133 2024.11

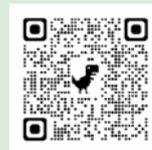


島大病院ニュース vol.134 2024.12



こちらの投稿をご覧になりたい方は、病院ホームページへアクセスください。最新の記事が更新されると、古い記事はバックナンバーへ移行されます。

アクセス方法：島根大学医学部附属病院
「島大ニュース」で検索
 もしくは右の二次元コードを読み込んでください



島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

6 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み

① 各医療機関間のネットワークづくり

総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会 専攻医のフォロー方法等について
第1回 令和6年6月30日(日)
- ・メール会議 8回 次年度の取り組みについて

② 総合診療医育成のためのプログラム作成・指導体制の整備支援

総合診療専門医育成プログラムの整備状況

令和6年度時点で下記の育成プログラムが整備されている。

■総合診療専門研修プログラム……12プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学病院・大田市立病院総合診療専門医コース研修プログラム
- ・島根県立中央病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門研修プログラム
- ・総合診療専門研修 仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・浜田市地域包括ケア総合診療専門医コース
- ・津和野共存病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲徳洲会病院総診プログラム
- ・松江赤十字病院 総合診療専門研修プログラム
- ・益田赤十字病院 総合診療専門研修プログラム



③ 総合診療専門医等の研修と養成

(1) 「しまね総合診療の集い」の実施

■第1回(ブラッシュアップセミナー)

【日 時】令和6年4月27日(土)14:00~18:00

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【講 師】聖母病院 総合診療科部長 南郷 栄秀 先生

【参加者】25名(学生14名)

【概 要】南郷先生は総合診療医として勤務される傍らEBM教育にも精通され、医師・多職種・学生などを対象に、日本中で教育講演されている先生である。

今回の総合診療の集いは、医学生が主体となって開催したセミナーであった。たくさんの医学生・研修医・指導医が参加し、活発なディスカッションが行われ、充実した時間となった。

第1部は「地域の中で総合診療を行うということ」をテーマとして、医師の中でも混同しがちな、家庭医と総合診療医、総合内科医の違いや、総合診療医の強みについてお話いただいた。講義の中で出てきた「総合診療医はカメレオンのような存在」という言葉が印象的であった。

第2部は現在流行しているGLP-1ダイエットの論文を各グループで読みながら、EBMで問題を定式化する手法であるPICOや収集した情報や文献の内容を鵜呑みにせず、自分自身で判断する批判的吟味等について学んだ。



■第2回

【日 時】令和6年 6月 30日(日)13:30~17:30

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】37名(学生7名)

【概 要】「The Diversity of GP」をコンセプトとして開催した今回の総合診療の集いはたくさんの医学生および医師に参加していただいた。第1部は新専攻医の村上先生と三谷先生が自己紹介され、和やかな雰囲気であった。その後、出雲市民病院の上村先生、やぶ医者大賞を受賞された波佐診療所の佐藤優子先生、島根大学医学部総合医療学講座の牧石先生が「患者さんのコンテクスト」について、全人的に理解することが重要であると述べられた。



第2部は大田市立病院の石田先生とあさひ診療所の邊田先生が「EBMと臨床経験の振り帰り」をテーマとして、普段の診療の中で地震が経験された症例をもとにプレゼンテーションされた。その後、医学生及び医師と活発なディスカッションが行われた。

島根の総合診療は全国的にも「熱く」今後も継続してフォローしていきたい。

■第3回

江津総合病院主催「ウェスタンカーニバル」

【テーマ】「Western Carnival 2024」

～地域医療を支えるみんなと繋がりを～

【日 時】令和6年8月31日(土)から9月1日(日)

【場 所】済生会江津総合病院他

【参加者】55名(学生5名の参加支援)

【概 要】地域医療を支える県内外の行使の講演、職種・年



年齢・所属機関を超えた大交流会、地域で働く楽しさややりがいを共に考えるグループワークなど盛りだくさんの内容となった。

■第4回

隠岐病院主催「オキフェス2024」

～総合診療医養成と地域医療の魅力を考える会～

【日時】令和6年9月22日(金)～23日(月)

【場所】鳥根県隠岐の島町都万地区

【参加者】50名(学生9名の参加支援)

【概要】(1日目)隠岐病院見学
フィールド学習
地域医療に関する講演
学習発表

(2日目)グループディスカッション
プレゼンテーション



■第5回

【日時】令和6年11月30日(土)13:30～17:30

【場所】鳥根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】29名(学生15名)

【概要】第1部では佐藤先生、遠藤先生、木島先生からそれぞれが考える予防医療についてのパネルディスカッションが行われ、明日からの診療のヒントとなる考え方を教示していただいた。

第2部では学生2名によるポートフォリオ検討会を行った。発表後のグループワークでも活発なディスカッションが行われ、参加者の理解や考え方がさらに深まった。

第3部では県内の専攻医の先生方の振り返り会が行われた。鳥根県内の様々な医療機関で、後期研修を行われている先生方の困り事や学びなどを、普段は直接関わる事が少ない指導医や医学生に共有して頂き良い刺激となった。



■第6回

【日時】令和7年2月1日(土)13:00～16:00

【場所】鳥根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【講師】横浜市立大学 ヘルスデータサイエンス専攻
准教授 金子 惇 先生

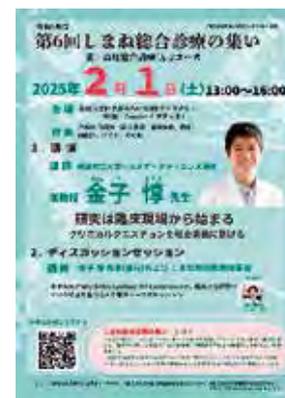
【参加者】23名(学生9名)

【概要】第1部では金子惇先生に「研究は臨床現場から始まる：臨床カルクエスチョンを社会実装に繋げる」をテーマにお話いただいた。

医療の現場で湧き上がる疑問が、どのように研究に繋がり、社会に貢献できるかを、先生の経験を交え具体的な事例を通し「総合診療医育成を目指した臨床研究」の本質を学ぶことが出来た。

第2部では、上村祐介先生が症例を提示後、各グループで活発なディスカッションが行われ、その後、参加した医学生が現在取り組んでいる研究についてのプレゼンが行われた。

今年度最後のしまね総合診療の集いであったが、新年度も積極的にセミナー等の支援を続けて行きたい。





(2) 全国セミナーへの参加(学生の学会等参加支援)

- 【日 時】 令和6年6月8日(土)～9日(日)
- 【場 所】 アクトシティ浜松
- 【件 名】 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
- 【参加者】 医学生6名(2年1名、3年1名、4年3名、5年1名)
- 【内 容】 学生セッションにてポスター発表(アルコール依存症について)

(3) BLS(1次救命処置)講習会の実施

院内BLS講習会およびアメリカ心臓協会BLS講習会を行った。

アメリカ心臓協会(Heart-Code®)BLSは、オンライン学習パートを修了後、会場での短時間スキルパートを受講することで、プロバイダーカードの取得ができる。

コロナ禍における新しい生活様式に沿った次世代型のBLSコースである。

区分	実施日	受講者(人)	
院内BLS講習会	5月16日	30	
	6月13日	31	
	7月18日	35	
	8月22日	41	
	9月12日	25	
	11月14日	12	
	12月12日	8	
	1月16日	10	
	合計	192	
	アメリカ心臓協会BLS講習会	BLS	6月22日
7月20日			14
9月21日			9
11月17日			15
12月7日			13
12月8日			7
合計			63
ACLS		10月12日	6
合計	69		

④ 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

(1) しまね地域医療支援センターとの連携

- 第1回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和6年7月8日(月)～12日(金)
- 第2回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和7年1月27日(月)～31日(金)

(2) 大学との連携

- 大学院コース等の支援
 - 博士課程: ①研究者育成コース (昼夜開講制)
 - ②総合診療・地域医療コース (昼夜開講制)
- そ の 他: 島根大学病院・大田市立病院総合診療専門医コース

(3) 医療機関との連携

総合診療科に関する医療機関担当者等との打ち合わせ(10件)

7 ワークライフバランス

① 教育

(1) ドクターキャリア形成特別講義(キャリア教育)

臨床実習前の医学科4年生対象にした男女共同参画講義(キャリア教育)を島根県医師会と共に、主催している。

【日 時】令和6年11月21日(木)9:40~16:10

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】島根大学医学部医学科4年生

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】日本医師会 島根大学男女共同参画推進室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】① WLB講演ならびにワーク

広島大学医学部附属教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

② キャリアモデルの紹介

呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生

小児脳神経疾患治療センター センター長 君和田 友美 先生

高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生

③ 島根大学男女共同参画の取り組み 島根大学副学長 河野 美江 先生

④ 島根県「えんネット」の取り組み 地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

「緩和ケア医として生きること」

信州大学 信州がんセンター緩和部門教授 間宮 敬子 先生





(2) ワークライフバランス講義

令和6年12月17日(火)に和歌山県立医科大学医学部医学科1年生に対して、医学概論IIの講義を「ワークライフバランスとヘルスプロモーション」と題して教授 佐野がオンラインにて担当した。学生たちは興味を持って聴講していた。

(3) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。今年度は応募がなかったが募集中である。

協力女性医師の所属

- ・出雲徳洲会病院
- ・飯南病院
- ・浜田国保診療所連合体
- ・島根大学医学部附属病院 など

(4) セミナーの開催

■ ワークライフバランスセミナー

【日 時】 令和6年10月1日(火)18:00～19:00

【場 所】 島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

Zoomを使用したハイブリット形式

【対 象】 学生、医療関係者

【主 催】 島根大学医学部附属病院地域医療支援学講座

【共 催】 島根大学ダイバーシティ推進室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【テーマ】 イキイキ個性の発揮が組織の成長へ～私らしいキャリア形成をめざして～

【講 師】 株式会社Woman's代表取締役 一級キャリアコンサルティング技能士 宮崎 結花 氏

【参加者】 53名(学生8名)

【概 要】 開催にあたって、ワークライフバランス支援室長より、当院のWLBの取り組みについてご紹介頂いた。

宮崎先生には、キャリアとは今までの歩んだ軌であり、自分を知ること自分らしい未来を生きることができるようになる。また、自分らしくありたい事を明確化するメリットとして、主体的な行動になること、イキイキとした毎日になること、環境に働きかけられるようになることを教えて頂いた。

宮崎先生のセミナーを4年ぶりに開催し、今回はオンラインであったが、今回対面が叶い先生のエネルギー溢れる姿や、 分かりやすいお話にみんなが引き込まれた。

今後もWLB支援室と協力しながら、職場環境の改善、仕事家庭の好循環を目指して活動を継続していきたい。



② 学生との交流

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。
女性医師らと学生とで議論が深まった。

■ 第1回えんネット交流会

【日 時】令和6年7月16日(火)18:00~19:00

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階 共通カンファレンス室I

【参加者】6名(学生1名)

【概 要】第1回えんネット交流会を開催した。少人数ながら、参加者同士が聞きたいことを自由に話し合うことができ、有意義な情報交換の場となった。保育園や子育てに関する情報を共有して驚くことや参考になることが多かった。普段あまり話す機会の少ない他科の医師や学生との交流を通じて、新しい縁が繋がった。そして、ワークライフバランスをはじめとする様々な課題を共に話し合い解決に向け、少しでも役に立つ良い機会となったと感じる。

仕事と家庭の両立に悩んでいる方や、体験談を知りたい方には、是非今後の交流会にご参加いただければと思います。お待ちしております。





■第2回えんネット交流会

【日 時】令和7年3月4日(火)17:30-18:30

【参加者】5名(学生2名)

【概 要】少人数ながら和やかな雰囲気の中で、医師のキャリア形成や専門医資格の取得と育児の両立について活発な意見交換が行われた。海外では成果を上げつつ家庭の時間も大切にしている医師が多く、その時間管理について質問したところ、留学経験のある医師から、日本と海外の子育てに対する社会の意識や雇用契約の違いについて学ぶことができた。

また、ジェンダーの特性を理解することが、仕事や家庭生活にも役立つことが共有することができた。結婚や育児について具体的なイメージを持っていなかった男性参加者からは、「普段聞けない話が聞けて良かった」との声があり、有意義な会となった。

今後も開催予定ですので、ぜひご参加ください。



③ 就労支援

(1) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口(えんネット)を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える医師のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

相談件数 20件

・相談窓口事業の相談内容

- ① 子育てと仕事の両立方法
- ② 離職後の段階的なスキルアップについて
- ③ 異動先の研修施設 院内保育所等 福利厚生状況
- ④ 身体的不調、精神的不調、ライフイベントに関連した働き方
- ⑤ ライフイベントと奨学金返還免除期間

(2) 復職サポート

職場紹介、雇用についてサポートを行っている。勤務が開始された後は健康面、精神面での定期的なフォローを行っている。

相談実績 2件

④ 研究

学生のキャリア選択についての研究

研究者：堀田優希江・佐野千晶

医学生のカリヤ認識が、どういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。

医学科1年生と医学科4年生に対してキャリア思考やWLBについてのアンケート調査を行っている。

⑤ 広報

(1) えんネットマガジンの発行

特集：チームワークを発揮して地域医療を守る

浜田医療センターを特集し、院長の栗栖泰郎先生、猪木迫彩香先生、青木萌子先生、松田花子先生、江田佐江子先生、川野早紀子先生にお話を伺った。

高齢の患者さんが多く、チーム医療が不可欠なこと、子育て医師もサポートできる互いに支えあう医療を展開されている。



(2) えんネットホームページ

キャリア支援・両立支援や学生支援の情報、学生教育について適宜更新している <https://www.en-net.jp>





(3) えんネットグッズの作成

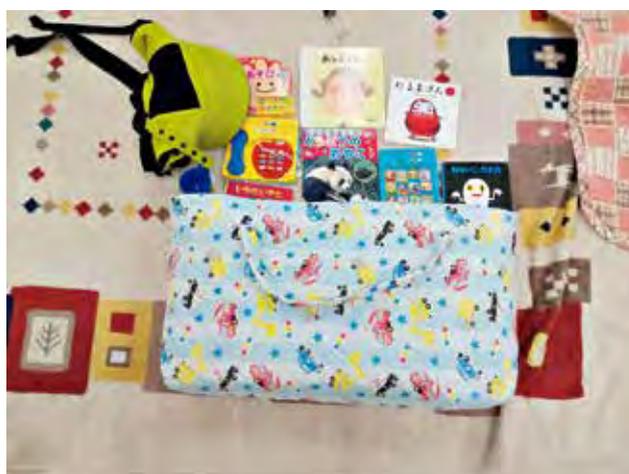
えんネットの活動周知のためにグッズを作成し、イベント等でお配りしています。
本年度は、キャンバストートバッグを作成いたしました。



⑥ 託児付セミナー支援

● 島根周産期新生児懇話会(島根大学医学部)

令和7年2月2日(日)9:00~13:00



8 地域医療支援学講座 15周年記念島根地域医療シンポジウム

『島根地域医療シンポジウム コロナ禍後の地域医療を考える』

【日 時】令和6年12月22日(日)13:00～16:30

【会 場】出雲ロイヤルホテル 1F 高砂の間

挨拶	島根大学医学部地域医療支援学講座教授	佐野 千晶
	島根県知事	丸山 達也
	島根大学学長	大谷 浩
	島根大学医学部長	石原 俊治

シンポジウム

テーマ:「ポストコロナ時代の地域医療を考える」

～多様な立場からのアプローチ～

《座長》島根大学医学部地域医療支援学講座助教	堀田 優希江
《シンポジスト》島根県健康福祉部医療統括監	谷口 栄作
島根大学医学部附属病院長	椎名 浩昭
町立奥出雲病院長	鈴木 賢二
島根大学医学部地域医療支援学講座教授	佐野 千晶
島根大学医学部医学科5年生	中尾 光希

講 評	元島根大学学長、小林病院院長	小林 祥泰
-----	----------------	-------

閉会挨拶	島根大学医学部地域医療支援学講座教授	佐野 千晶
------	--------------------	-------

【概 要】 地域医療支援学講座は、平成22年に島根県の寄附講座として開設され、令和7年春に15年の佳節を迎える。その記念事業として、「コロナ禍後の地域医療を考える」と題し島根地域医療シンポジウムを開催した。

島根県知事、島根大学学長、島根大学医学部長からの祝辞に続き、シンポジウムでは医療行政、大学病院、医学教育、医学生の視点から4名のシンポジストが発表を行った。最後に元島根大学学長小林病院理事長の小林祥泰氏による講評が行われた。

当講座は、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関の御支援によって積み上げられてきたものである。今後も講座としての使命を果たせるよう、新たな歩みを着実に進めていきたい。

シンポジウム

「(コロナ禍、) その後の地域医療を考える」

シンポジスト：島根県 健康福祉部 医療統括監 谷口 栄作 先生



島根大学医学部地域医療支援学講座
15周年記念
島根地域医療シンポジウム20241220

(コロナ禍、) その後の地域医療を考える

島根県 健康福祉部 医療統括監 谷口 栄作

目次

- 1) 今後の地域の医療介護のニーズは
- 2) 今後の地域医療を考える
- 3) 地域への愛着について考える

島根県では

日本の総人口増減率(人口)と島根(2023年推計) (推定総人口: 人口動態推計)

2020 2040

2060年はどうなりますか？

2060頃～

予想

島根県の出生数と合計特殊出生率

松江市

全体の人口は減少した。85歳以上の高齢者、特に女性の絶対数が増加する。人口減少は急速で2030年までに、特に松江、浜田、島根県境、島根半島が増加。外来需要は減少傾向

・部分別(市)で高齢化率の減少
・総合診療ニーズの相対的増加
・2040年まで介護サービスのニーズが急増。特に認知症のニーズが増える。これに対応する施設の増加に併せて、介護療養料の増額が必要かどうかを判断。その際には、在宅サービス(介護)を促す必要をさらに増加させる。

大田市

全体の人口は減少した。85歳以上の高齢者の割合が増える。高齢化が加速する。人口減少は急速で2030年までに、特に松江、浜田、島根県境、島根半島が増加。外来需要は減少傾向

・全体的に専門診療ニーズの減少
・総合診療ニーズの相対的増加
・2020年以降、介護サービスの利用ニーズは減少傾向にある。

診療と介護ニーズパターン

地域	外来診療ニーズ	介護サービスニーズ	傾向
地域A	増加	増加	医療・介護の増加
地域B	減少	増加	医療機能のダウンサイズ 介護の増加
地域C	減少	減少	医療機能のダウンサイズ 介護のダウンサイズ

診療所勤務医師数(H24→R2)

	H24	R2	減少数	減少率	70歳以上割合	60歳以上割合
松江圏域	220	216	▲4	-2%	23%	56%
出雲圏域	165	169	▲4	2%	27%	53%
雲南圏域	37	28	▲9	-24%	32%	61%
大田圏域	55	41	▲14	-25%	32%	63%
浜田圏域	86	79	▲7	-8%	34%	58%
益田圏域	61	49	▲12	-20%	20%	65%
隠岐圏域	10	9	▲1	-10%	33%	78%
全県	634	591	▲43	-7%	27%	57%

離島・中山間地域を持つ自治体病院の役割の一つ

～ある地域で～

周辺への支援

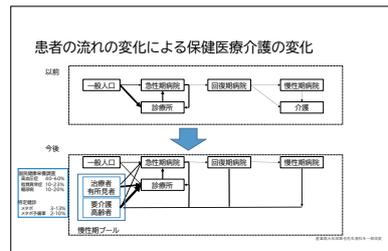
高齢による病院 高齢による病院 高齢による病院

分限化 遠2医師派遣

市町村単位の一次医療の議論
→正解がない中で、将来の保健医療福祉をイメージし、どうするか

今後の医療提供体制に関する一視点

- 1) 1次医療提供体制(市町村)
→ 前述
- 2) 2次医療提供体制(2次医療圏)
→ ニーズに合わせた医療供給体制
市町村及び県の政策医療としての医療供給体制
- 3) 3次医療提供体制(全県)
→ ニーズに合わせた医療供給体制
市町村及び県の政策医療としての医療供給体制



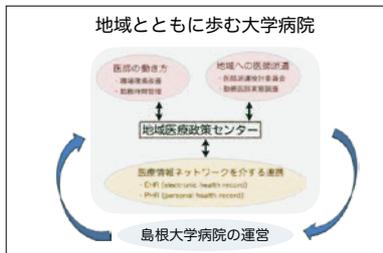
島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

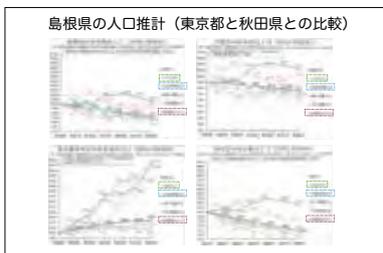
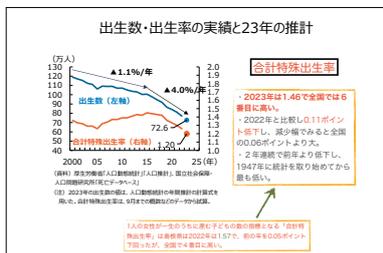


島根県の未来に向けての役割

～島根大学医学部附属病院が目指すもの～

島根県保険医療計画

- 第1章 基本的事項
- 第2章 地域の現状
- 第3章 医療圏及び基準病床数
- 第4章 地域医療構想
- 第5章 医療提供体制の現状、課題及び施策の方向
(がん、脳卒中、心臓血管等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患、
腎臓疾患、立派な医療、感染症に対する医療【感染症予防計画】、
地域医療、高度医療、小児医療、在宅医療、
外来医療に係る医療提供体制の確保【外来医療計画】、
健康なまちづくりの推進
【健康長寿しなま推進計画、健やか親子しなま計画】)
- 第6章 保健医療事業者の確保、育成
【医師確保計画、薬剤師確保計画】
- 第7章 将来の保健医療提供体制の確保に向けた事業の推進



小児医療の充実を目指して

「島根県医療的ケア児支援センター」

2023年8月18日開業の「島根県医療的ケア児支援センター」が、県民生活に大きな影響を与えています。支援センターは、医療的ケア児とそのご家族の生活を支えるための拠点として、様々な支援を提供しています。

島根県保険医療計画

6. その他の体制整備・対策

- ① 医師の確保と働き方改革
 - 医師の確保と働き方改革を推進し、医師不足の解消を図ります。
 - 医師の働き方改革を推進し、医師の働きやすさを確保します。
- ② 看護師の確保と働き方改革
 - 看護師の確保と働き方改革を推進し、看護師不足の解消を図ります。
 - 看護師の働き方改革を推進し、看護師の働きやすさを確保します。
- ③ 薬剤師の確保と働き方改革
 - 薬剤師の確保と働き方改革を推進し、薬剤師不足の解消を図ります。
 - 薬剤師の働き方改革を推進し、薬剤師の働きやすさを確保します。
- ④ 診療報酬の適正化
 - 診療報酬の適正化を推進し、医療機関の経営を安定させます。
 - 診療報酬の適正化を推進し、医療の質を向上させます。

第4期島根がん対策推進計画

がん対策推進計画の概要と、がん予防、早期発見、治療の取組みについて説明しています。



人が集まるためには・・・

～島根大学病院の進むべき道～

「医療、福祉と教育が充実した社会」

未来に向けての役割

～島根大学病院の進むべき道～

「地域医療と先進的な医療の調和」

先進的な医療の取り組み

- 小児医療の充実→周産期医療
- 緩和医療の充実→人生会議（ACP）
- 移植医療の発展→腎臓、肝臓

「今後とも、安心して出産・子育てができる島根を目指して、島根県生計画の取組を一層進めたい。」

これからの島根大学医学部附属病院

島根大学病院の理念は、地域医療と先進医療を両立し、良質な医療を提供することにあります。島根県保険医療計画に沿って、がん医療、小児医療、在宅医療の体制を整え、地域医療の充実を図ります。

島根大学医学部附属病院が目指すもの

我執を捨て、利他行をつむ

「人の幸せのために尽くす」

医師人としてプロの集団を創ることから私たちの使命であり、それを4時間、シームレスに医療チームとして地域に還元できれば、きっと良い社会を作り出すことができる。

ご清聴ありがとうございました。

島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



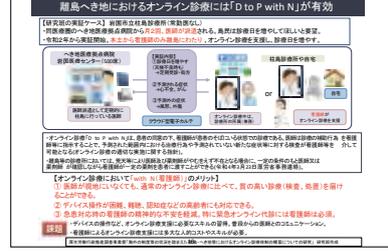
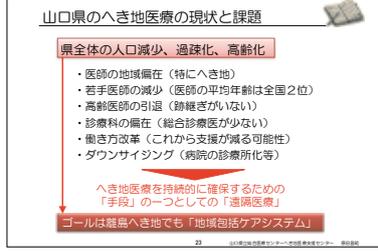
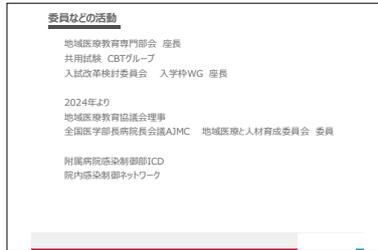
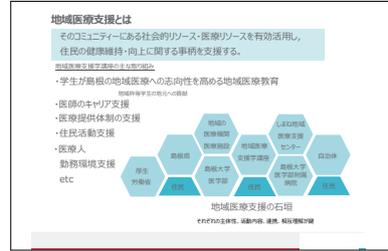
鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



「医学生生活 with コロナ： コロナ禍から始まる未来への挑戦」

シンポジスト：島根大学医学部 医学科 5年
中尾 光希 さん



島根地域医療シンポジウム

医学生生活withコロナ：
コロナ禍から始まる未来への挑戦

島根大学医学部医学科5年 中尾光希
2024.12.22(Sun)

中尾 光希
NAKAO MITSUKI

2021年生まれ
広島県広島市三島
AIC中学高等学校 卒業
2020年 島根大学医学部医学科入学(4年)

趣味：Dとリヲ
バイブル：林檎のまん子(小学館文庫)
生きがい：誰かのHAPPYのためにになりたい

私の成長曲線

2020年 Lv.1 大コロナ時代と医学生
2021年-2024年 Lv.2-4 出会いが導く成長と飛躍
2025年 Lv.?? 出会う機会を創出し続ける社会から医師になる

Lv.1 大コロナ時代と医学生

- 新生活の始まり「難力感」
- 楽しみにしていた早期体験実習や夏期地域医療実習は縮小・延期
- 生活に制限がかかる中で大人は疲れていく...
- THE 医者らしいことを早速学べるかと思いきや、遠征子や価値を学ぶのか、とギャップを感じていた

Lv.1 大コロナ時代と医学生

- オンラインでは急速に医学生のコミュニティが形成されていく
- 他大学の学生、学年を越えて交流できる楽しみ
- 臨床の第一線で活躍する医師から話を聞く機会
- 愚直のままだが毎日のように参加していた
- 少し先の景色が見える冒険した感覚

Lv.2-4 出会いが導く成長と飛躍

対面授業が始まり制限が緩和されていく社会

- 基礎医学・臨床医学を学びと学び、分かることも増えてきた
- オンラインでのコミュニティは徐々に...
- オンラインで繋がっていた仲間と会うオフラインのイベントへ
- 行きたかった場所、遊べなかった人に会いに行く

全国津々浦々
日本と医療を旅する

北海道 札幌医科大学
東北 東北大学
関東 東京大学
中部 名古屋大学
近畿 京都大学
中国 岡山大学
四国 高松大学
九州 九州大学

Lv.5 出会いが導く成長と飛躍

臨床実習の始まり

- 臨床実習が始まり、臨床現場が日常に
- 医学を学ぶことは本当に楽しい
- 地域実習で学んだこと
- 4年次までの短期間の実習だけでは見えてこなかった、医師の役割にも気づく

Lv.?? 医学生から医師へ

私の野望
すべての人が自分自身を大切にしながら、
充実感を感じられる社会

Lv.?? 医学生から医師へ

医師として

- 患者が心身共に健康しながら生きられる医療を提供したい
- 豊かな知識と技術を身につける

地域社会へ

- 一員として医療を貢献する
- 地域社会を見守る役割をもち、健康の増進と生活を守るヘルプを担う

医療界へ

- 新しい医療になることを諦めない
- 臨床研究を通じて医療の発展に貢献したい

謝辞

今回の発表の機会を与えてくださった、
地域医療支援学講座 佐野千晶教授、座長 堀田優希江先生、
実習にお世話になった腫瘍先生方に
厚謝申し上げます

島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



大谷 浩 学長



安食 治外 部長(鳥根県健康福祉部)



小林 祥泰 元学長



石原 俊治 医学部長



業績

ACHIEVEMENTS

【著書】

1. 佐野千晶、多田納豊 : 8 章 . 抗酸菌の同定 (分担執筆) 抗酸菌検査ガイド 2025 日本結核・非結核性抗酸菌症学会 編集、南江堂、東京、p51-77 (全130頁)、2025 年 1 月30日発行
ISBN978-4-524-21601-7

【論文】

1. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: The Association Between Community Participation and Loneliness Among Patients in Rural Community Hospitals: A Cross-Sectional Study. (March 19, 2024) *Cureus* 16(3): e56501. doi:10.7759/cureus.56501 (IF 1.0)
2. Yuri Asano, Taichi Fujimori, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: The Balance Between Intensive and Palliative Care in an Anti-melanoma Differentiation-Associated Gene 5 (MDA5) Antibody-Positive Acute Interstitial Pneumonia in a Nonagenarian: A Case Report. (March 26, 2024) *Cureus* 16(3): e56983. doi:10.7759/cureus.56983 (IF 1.0)
3. Ryuichi Ohta, Satoko Maejima, Chiaki Sano: Applying Advanced Practice Nurses in Rural Japan: A Mixed-Methods Perspective. (March 27, 2024) *Cureus* 16(3): e57015. doi:10.7759/cureus.57015
4. Ryuichi Ohta, Nozomi Nishikura, Shinichiro Suyama, Chiaki Sano: Differentiation Between Disseminated Carcinomatosis of the Bone Marrow From Urothelial Cancer and Intravascular Large B-cell Lymphoma: A Case Report. (March 29, 2024) *Cureus* 16(3): e57221. (IF 1.0)
5. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: The Association Between Community Dialogue and Loneliness in Rural Japanese Communities: A Cross-Sectional Study. (April 06, 2024) *Cureus* 16(4): e57744. doi:10.7759/cureus.57744 (IF 1.0)
6. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Biopsychosocial Management of Rural Ankylosing Spondylitis in a Pregnant Woman: A Case Report. (April 28, 2024) *Cureus* 16(4): e59187. doi:10.7759/cureus.59187 (IF 1.0)
7. Taichi Fujimori, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome Due to Long-Term Usage of Methotrexate: A Case Report. (April 20, 2024) *Cureus* 16(4): e58659. doi:10.7759/cureus.58659 (IF 1.0)
8. Taichi Matsubara, Chihiro Uda, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: A Case Report of Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis With Pitting Edema Causing Severe Anemia, Acute Progressive Dementia, and Chronic Eczema in an Older Female. (April 24, 2024) *Cureus* 16(4): e58940. doi:10.7759/cureus.58940 (IF 1.0)



9. Ryuichi Ohta, Tachiko Nitta, Akiko Shimizu, Chiaki Sano: Role of family medicine physicians in providing nutrition support to older patients admitted to orthopedics departments: a grounded theory approach. *BMC Primary Care* 2024, 25(121): doi.org/10.1186/s12875-024-02379-4 (IF 2.0)
10. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: Linking Agricultural Activity Frequency to Loneliness in Rural Hospital Patients: A Cross-Sectional Study. (May 08, 2024) *Cureus* 16(5): e59909. doi:10.7759/cureus.59909 (IF 1.0)
11. Miharuru Kawanishi, Shinichiro Suyama, Nozomi Nishikura, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Seronegative Rheumatoid Arthritis in an Elderly Dialysis Patient With Multiple Comorbidities: A Case Report. (May 10, 2024) *Cureus* 16(5): e60066. doi:10.7759/cureus.60066 (IF 1.0)
12. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Family Medicine Implementation to Maternal and Child Health in Rural Japan: A Narrative Review. (May 14, 2024) *Cureus* 16(5): e60305. doi:10.7759/cureus.60305 (IF 1.0)
13. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Disparity of the Treatment of Unresectable Non-small Cell Lung Cancer Regarding Chemotherapy: A Systematic Review and Meta-Analysis. (May 19, 2024) *Cureus* 16(5): e60635. doi:10.7759/cureus.60635 (IF 1.0)
14. Hisae Minamioka, Yuto Tsukihashi, Tasuku Yano, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Giant Cell Arteritis With Sepsis-Like Symptoms in an Elderly Man: A Case Report. (May 25, 2024) *Cureus* 16(5): e61074. doi:10.7759/cureus.61074 (IF 1.0)
15. Saaya Nakazato, Shota Ogawa, Kohei Oka, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Chronic and Acute Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome in a Rural Patient With Cytomegalovirus Infection: A Case Report. (May 30, 2024) *Cureus* 16(5): e61376. doi:10.7759/cureus.61376 (IF 1.0)
16. Ryuichi Ohta, Keita Inoue, Chiaki Sano: Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-Negative Rapid Progressive Glomerulonephritis With Mild Pathological Presentation in an Older Patient: A Case Report. (May 30, 2024) *Cureus* 16(5): e61390. doi:10.7759/cureus.61390 (IF 1.0)
17. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: The Association Between the Frequency of Agriculture and Control of Chronic Diseases Among Regular Patients in Rural Community Hospitals: A Cross-Sectional Study. (June 21, 2024) *Cureus* 16(6): e62849. doi:10.7759/cureus.62849 (IF 1.0)
18. Ryuichi Ohta, Yumi Naito, Chiaki Sano: Extended Follow-Up and Analysis of Non-secretory IgG-Type Multiple Myeloma in a Patient With Fibromyalgia: A Case Report. (June 27, 2024) *Cureus* 16(6): e63321. doi:10.7759/cureus.63321 (IF 1.0)
19. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Chiaki Sano: Perceptions of C-reactive Protein Measurement

- Among General Physicians: A Qualitative Study on Diagnostic Value, Clinical Dilemmas, and Professional Growth. (July 02, 2024) *Cureus* 16(7): e63695. doi:10.7759/cureus.63695 (IF 1.0)
20. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: The Quality of Family Medicine Team Conferences Through the Lens of a Director: An Autoethnography. (July 09, 2024) *Cureus* 16(7): e64173. doi:10.7759/cureus.64173 (IF 1.0)
21. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: Association Between Pneumococcal Vaccination Uptake and Loneliness Among Regular Patients in Rural Community Hospitals: A Cross-Sectional Study. (July 24, 2024) *Cureus* 16(7): e65293. doi:10.7759/cureus.65293 (IF 1.0)
22. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Factors affecting the duration of initial medical care seeking among older rural patients diagnosed with rheumatoid arthritis: a retrospective cohort study. *BMC rheumatology* 2024, 8(1), 23; doi.org/10.1186/s41927-024-00392-9 (IF 2.1)
23. Ryuichi Ohta, Kei Tsumura, Chiaki Sano: The Relationship Between Hyperalbuminemia and Unscheduled Medical Visits: A Retrospective Cohort Study. (July 28, 2024) *Cureus* 16(7): e65585. doi:10.7759/cureus.65585 (IF 1.0)
24. Ryuichi Ohta, Kentaro Yoshioka, Chiaki Sano: Evolution of the roles of family physicians through collaboration with rehabilitation therapists in rural community hospitals: a grounded theory approach. *BMC primary care* 2024, 25(1), 283; doi.org/10.1186/s12875-024-02540-z (IF 2.0)
25. Ayato Nakagawa, Natsumi Yamamoto, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Polymyalgia Rheumatica Complicated by Nephrotic Syndrome in a Nonagenarian: A Case Report. (August 10, 2024) *Cureus* 16(8): e66592. doi:10.7759/cureus.66592 (IF 1.0)
26. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Hiroshi Adachi, Chiaki Sano: Community Health Dialogue Implementation for the Solution of Loneliness in Rural Communities: Autoethnography. (August 19, 2024) *Cureus* 16(8): e67245. doi:10.7759/cureus.67245 (IF 1.0)
27. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Deepening the Understanding of Inflammatory Conditions Through Rheumatology Education in Family Medicine: An Autoethnography. (August 25, 2024) *Cureus* 16(8): e67741. doi:10.7759/cureus.67741 (IF 1.0)
28. Kasumi Nishikawa, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: The effect of management of older patients with heart failure by general physicians on mortality and hospitalization rates: a retrospective cohort study. *BMC primary care* 2024, 25(1), 330; doi.org/10.1186/s12875-024-02558-3 (IF 2.0)
29. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Prostate Cancer Care in Rural Primary Care Contexts: A Narrative Review. (September 07, 2024) *Cureus* 16(9): e68890. doi:10.7759/cureus.68890 (IF 1.0)



30. Chihiro Uda, Kei Tsumura, [Chiaki Sano](#), Ryuichi Ohta: Recurrence of Sigmoid Volvulus Associated With Constipation: A Retrospective Cohort Study. (September 09, 2024) Cureus 16(9): e68972. doi:10.7759/cureus.68972 (IF 1.0)
31. Chihiro Uda, Ryuichi Ohta, Takashi Koike, [Chiaki Sano](#): Challenges in Managing External Dental Fistula in an Immunocompromised Elderly Patient: A Case Report. (September 19, 2024) Cureus 16(9): e69742. doi:10.7759/cureus.69742 (IF 1.0)
32. Ryuichi Ohta, [Chiaki Sano](#): Aspiration as an Initial Symptom of Early-Stage Esophageal Cancer: A Case Report. (September 19, 2024) Cureus 16(9): e69758. doi:10.7759/cureus.69758 (IF 1.0)
33. Ryuichi Ohta, [Chiaki Sano](#): Factors Affecting Recurrent Staphylococcus aureus Bacteremia Among Older Patients in Rural Community Hospitals: A Retrospective Cohort Study. (September 24, 2024) Cureus 16(9): e70120. doi:10.7759/cureus.70120 (IF 1.0)
34. Ryosuke Kashiwaba, Kohei Oka, Natsumi Yamamoto, [Chiaki Sano](#), Ryuichi Ohta: Persistent Fever in an Elderly Patient: Diagnostic Challenges and Management of Aspiration Pneumonitis and Organizing Pneumonia. (September 24, 2024) Cureus 16(9): e70121. doi:10.7759/cureus.70121 (IF 1.0)
35. Chihiro Uda, Ryuichi Ohta, [Chiaki Sano](#): Advanced Gouty Nephropathy Complicated With Type 1 Renal Tubular Acidosis: A Case Report. (October 08, 2024) Cureus 16(10): e71094. doi:10.7759/cureus.71094 (IF 1.0)
36. Yudai Tanaka, Ryuichi Ohta, [Chiaki Sano](#): Impact of Chronic Organ Disorder Staging on Hospitalization Risk in Elderly Patients With Multimorbidity: A Retrospective Cohort Study. (October 09, 2024) Cureus 16(10): e71168. doi:10.7759/cureus.71168 (IF 1.0)
37. Natsumi Yamamoto, Ryuichi Ohta, Akira Yamasaki, [Chiaki Sano](#): Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody (ANCA)-Associated Fasciitis Mimicking Pseudogout in an Older Patient: A Diagnostic Challenge and Treatment Approach. (October 16, 2024) Cureus 16(10): e71585. doi:10.7759/cureus.71585 (IF 1.0)
38. Saya Hiramine, Yudai Tanaka, [Chiaki Sano](#), Ryuichi Ohta: Invasive Group A Streptococcal Meningitis Following COVID-19 Infection Complicated by Multisystem Inflammatory Syndrome: A Case Report. (October 20, 2024) Cureus 16(10): e71945. doi:10.7759/cureus.71945
39. Issei Tanaka, Yutaka Sato, [Chiaki Sano](#), Ryuichi Ohta: Pancytopenia and Acute Liver Failure Caused by Mild COVID-19 in an Older Patient: A Case Report. (October 30, 2024) Cureus 16(10): e72681. doi:10.7759/cureus.72681 (IF 1.0)
40. Satoru Sekiguchi, Ryuichi Ohta, [Chiaki Sano](#): Low Body Mass Index as a Significant Risk

- Factor for Hypoglycemia in Hospitalized Elderly Patients With Acute Pyelonephritis: A Retrospective Cohort Study. (October 30, 2024) *Cureus* 16(10): e72682. doi:10.7759/cureus.72682 (IF 1.0)
41. Chihiro Uda, Ryuichi Ohta, Yoko Senaha, Chiaki Sano: Castleman Disease Presenting as Unexplained Abdominal Pain in a 93-Year-Old Woman: A Case Report. (November 01, 2024) *Cureus* 16(11): e72844. doi:10.7759/cureus.72844 (IF 1.0)
42. Ryuichi Ohta, Toshihiro Yakabe, Chiaki Sano: The development of an online-based rural community of practice framework for addressing health issues among rural citizens: a grounded theory approach. *BMC public health* 24(1) 3166: doi.org/10.1186/s12889-024-20690-8 (IF 3.5)
43. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Effectiveness of General Medicine in the Management of Rheumatoid Arthritis in Rural Settings: A Systematic Review and Meta-Ethnography. (November 15, 2024) *Cureus* 16(11): e73726. doi:10.7759/cureus.73726 (IF 1.0)
44. Sayaka Mabuchi, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Osteoporosis management in a rural community hospital in Japan: a cross-sectional retrospective study. *BMJ open* 14(11) e086845: doi.org/10.1136/bmjopen-2024-086845 (IF 2.4)
45. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Loneliness and the Associating Factors Among Regular Patients in Rural Community Hospitals: A Cross-Sectional Study. (January 20, 2025) *Cureus* 17(1): e77723. doi:10.7759/cureus.77723 (IF 1.0)
46. Yudai Tanaka, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Successful Management of Rapidly Progressive Interstitial Pneumonia With Autoimmune Features in an Elderly Patient: A Case Report. (January 31, 2025) *Cureus* 17(1): e78303. doi:10.7759/cureus.78303 (IF 1.0)
47. Yuta Horinishi, Rimi Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: The Role of Beauty Salons in Community Health Promotion: Exploring Health Engagement and Social Connectivity in Japanese Hair Salons. (February 23, 2025) *Cureus* 17(2): e79511. doi:10.7759/cureus.79511 (IF 1.0)



【学会発表】

1. 齊藤悠里子、松本香奈枝、小池貴之、山崎修、野津雅和、佐野千晶：治療中の甲状腺機能低下症に伴った柑皮症の1例. 第38回日本皮膚科学会島根地方会 対面、出雲 2024年3月10日（会長 山崎修）
2. 篠田航平、佐藤優子、島田直英、新城圭史郎、岡日輪乃、川崎侑哉、親泊ゆりか、河村実、織田侑希、天願由依菜、山田康介、阿部顕治、佐野千晶：島根大学医学部地域医療研究会の医療ブース実施経験. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、学生セッション 対面 ポスター発表、浜松 アクトシティ浜松 2024年6月9日（会期 6/7-9 大会長 井上 真智子）
3. 堀田優希江、布野慶人、佐野千晶：医学生におけるキャリアに関するアンケート調査. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 口頭発表、浜松 アクトシティ浜松 2024年6月9日（会期 6/7-9 大会長 井上 真智子）
4. 亀田 央純、堀田 優希江、森倉 一郎、青井 典明、木村 光宏、坂本 達則：腺癌を合併した内反性乳頭腫の一例. 第63回日本鼻科学会総会・学術講演会 対面 口演、東京 京王プラザホテル 2024年7月29日
5. 多田納 豊、宗像 達夫、澤井 円香、八木 秀樹、佐野 千晶、富岡 治明：Mycobacterium avium complex由来Dアミノ酸によるマクロファージの遺伝子発現の変化. 第97回日本細菌学会総会 デジタルポスター、札幌 札幌コンベンションセンター 2024年8月7日（会期 8/7-9 会長 横田 伸一）
6. 佐野千晶、布野慶人、家本美佳、谷口栄作、御輿大河、堀田優希江：専門科選択についての臨床研修医アンケート調査. 第56回日本医学教育学会大会 対面 ポスター、東京 帝京大学 2024年8月10日（会期 8/9-10 大会長 沖永寛子）
7. 堀田優希江、家本美佳、布野慶人、佐野千晶：医療者労働環境改善のための「えんネット」活動の模索. 第56回日本医学教育学会大会 対面 ポスター、東京 帝京大学 2024年8月10日（会期 8/9-10 大会長 沖永寛子）
8. 布野慶人、谷口栄作、佐野千晶：「令和6年能登半島地震」DMAT活動報. 第83回日本公衆衛生学会総会 対面 口頭、札幌 札幌コンベンションセンター 2024年10月29日（会期 10/29-31 学会長 玉腰暁子）

【講演】

1. 佐野千晶：抗酸菌症に対する免疫と感染対策 第454回ICD講習会 第47回日本骨・関節感染症学会 対面 口頭（会長 島根大学医学部整形外科学教室 内尾祐司） 2024年7月27日 出雲
2. 佐野千晶、家本美佳、布野慶人、堀田優希江：島根大学医学部での地域医療教育ならびに地域医療支援学講座について. 第15回中四国地域医療フォーラム プレ集会、対面 口頭（徳島大学 八木秀介） 2025年1月31日 徳島
3. 堀田優希江：島根プログラム紹介「卒前から地域医療マインドを育てる」 第14回中四国地域医療フォーラム 本集会、対面 口頭発表（徳島大学 八木秀介） 2025年2月1日 徳島

【学外嘱託講師】

1. 佐野千晶：島根リハビリテーション学院 理学療法学科 作業療法学科 1年 「感染症」「中毒・物理的因子による疾患」対面 2024年6月10日

2. 佐野千晶：島根県立大学 認定看護師教育課程（感染管理：B課程）「微生物の基本知識」対面
2024年10月8日
3. 佐野千晶：和歌山県立医科大学 医学科1年生 医学概論2「Work-life balance and health promotion」オンラインライブ 2024年12月17日

【学会以外の発表】

1. 佐野千晶：島根大学医学部における地域医療教育、高校生向け地域枠・地域医療合同説明会 岡山大学 島根大学 香川大学 鳥取大学（ポストコロナ医療人材養成事業：山里海医学共育プロジェクト）ライブ配信 2024年8月7日/オンデマンド配信 フルオンライン
2. 佐野千晶：ポストコロナ時代の医療人法制拠点形成事業 多地域共創型医学教育シンポジウム in 香川 地域医療 を話し合おう でつながろう の学びを深めよう 「島根大学 成果報告」2024年12月13日（担当校 香川大学医学部）フルオンライン

【特別な会議 その他】

1. 佐野千晶 [外部評価委員]：令和6年度島根県感染症発生動向調査委員会 2024年7月12日、松江
2. 佐野千晶：[保健部門外部評価委員]令和6年度島根県保健環境科学研究所・原子力環境センター調査研究課題等検討委員会 2024年9月3日、松江
3. 佐野千晶：[理事] 令和6年度第2回地域医療教育協議会 理事会 2024年9月18日：オンライン
4. 佐野千晶 [委員]：全国医学部長病院長会議 AJMC 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 2024年10月7日：オンライン（委員長 琉球大学病院 病院長 大屋祐輔）
5. 佐野千晶 [島根県医師会男女共同参画委員会委員]：令和6年女性医師・ドクターバンク連携中国四国ブロック会議 2024年11月4日、対面 岡山市、主催：岡山県医師会
6. 佐野千晶 [委員長]：雲南市立病院経営強化プラン評価委員会 2024年11月19日、対面、主催：雲南市立病院
7. 佐野千晶：[委員長] 令和6年度出雲市立総合医療センター経営評価委員会 2024年12月19日、対面、主催：出雲市立総合医療センター
8. 佐野千晶：[理事] 令和6年度第3回地域医療教育協議会 理事会 2025年2月21日：オンライン参加 ハイブリッド開催
9. 佐野千晶：[地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会委員・グループファシリテーター] 全国医学部長病院長会議 (AJMC) 「地域枠制度についての意見交換会」対面、2025年3月7日、東京（委員長 琉球大学病院 病院長 大屋祐輔）
10. 佐野千晶：[委員] 令和6年度 鳥取大学医学部地域医療学講座あり方懇話会 2025年3月13日：オンライン参加 ハイブリッド開催 主催：鳥取大学医学部
11. 佐野千晶：[世話人] 雲南リサーチミーティング フルオンライン 月1回開催
12. 布野慶人：[評議員] 日本病院前救急救命学会 フルオンライン 隔月開催
13. 布野慶人：[評議員] 日本救急救命学会 フルオンライン 年3回開催
14. 横田高校×島根大学 Region Joint Meeting in 島根医学部キャンパス コーディネーター 堀田優希江 2024年9月27日（救急医学講座 岩下義明）



- 15.臨床入門実習「胃管挿入」 4年生全員、指導 堀田優希江 2024年12月17日
- 16.医療従事者対象 院内BLS（1次救命処置）講習 5、6、7、8、9、11、12、1月 292名受講、布野慶人（メインインストラクターとして参加）
- 17.AHA（アメリカ心臓協会）BLSコース開催 5、7、9、11、12月 69名受講、布野慶人（主催者として）
- 18.AHA（アメリカ心臓協会）ACLSコース参加 6、8月 布野慶人（インストラクター）
- 19.第10回日本救急救命学会学術集会 併設「ワークショップ 救急現場のコミュニケーション」開催 27名受講 布野慶人（主催者として）2024年10月20日

【学会開催】

1. 布野慶人：第10回日本救急救命学会学術集会開催（実行委員長として）島根大学医学部臨床大講堂 2024年10月19日

【学会/講習等参加】（年度開始）

1. 令和6年度指導医講習会アドバンスコース プロフェッショナルに求められる2刀流（佐野千晶）対面 島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター 2024年4月30日
2. 第5回R4改訂医学教育コアカリの理解と活用のためのオンラインシンポジウム（佐野千晶）ライブオンライン 日本医学教育学会 医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会 インフラチーム 2024年5月8日
3. Pre-OSCE認定評価者講習会 頭頸部（佐野千晶）CATO 東京 2024年7月24日
4. 医学統計勉強会 帝京大学臨床研究センター（TARC）（佐野千晶）オンライン不定期開催
5. 第26回日本骨粗鬆症学会主催（家本美佳）公益財団法人 骨粗鬆症財団 石川県立音楽堂、金沢市文化ホール、北國新聞赤羽ホール 大会長三浦雅一（北陸大学理事・薬学部部長）2024年10月11日（金）～13日（日）
6. 第21回島根大学医学部附属病院関連病院長会議（佐野千晶）2024年10月31日
7. 令和6年度 結核研修会 ～結核診療の初期対応を中心に～（佐野千晶）主催：島根県出雲保健所 2025年1月30日
8. 第16回全国シンポジウム「地域推薦枠医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」～地域枠医師の貢献、そしてその課題を考える～（佐野千晶）主催：鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター、全国地域医療教育協議会 ハイブリッド開催 ライブオンライン参加、2025年2月21日
9. 第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会（堀田優希江）オンデマンド 2024年12月～2025年3月
10. 第6回女性医師の集い（堀田優希江）2025年1月18日 現地参加 出雲 主催：旭化成ファーマ



写真で見る1年間

PHOTO

4月 地域枠等特別選抜枠
新入生説明会・意見交換会



4月 キャリアセミナー(下条 芳秀先生)



4月 地域医療セミナー(上野 伸行先生)



4月 しまね総合診療の集い



5月 キャリアガイダンス



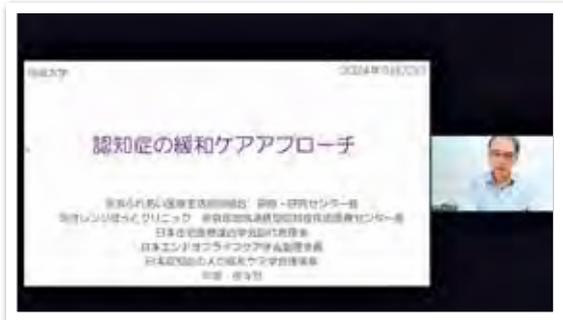
5月 地域医療セミナー(福島 哲仁先生)



5月 キャリアセミナー(高井 清江先生)



5月 地域医療セミナー(平原 佐斗司先生)



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

5月 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)報告会



5月 学生企画×地域医療セミナー特別編
(三浦 太郎先生)



6月 キャリアセミナー(谷戸 正樹先生)



6月 しまね総合診療の集い



7月 地域医療セミナー(和足 孝之先生)



7月 えんネット交流会



7月 キャリアセミナー(浦野 健先生)



8月 地域医療体験実習Ⅰ(夏季)



8月 松江生協・松江市立・松江赤十字 病院見学



8月 島根県庁表敬訪問



9月 研究室配属



9月 キャリアセミナー(岡田 大司先生)



9月 5年生学年会



10月 研究室配属発表会



10月 1年生学年会



10月 ワークライフバランスセミナー
(宮崎 結花先生)





鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

10月 地域医療セミナー
(佐藤 千晃先生・清水 美穂子先生)



10月 キャリアセミナー(安田 謙二先生)



11月 地域枠等全学年会



11月 感染症・地域医療セミナー(山口 浩樹先生)



11月 臨床実習入門特別講義(香田 将英先生)



11月 キャリアセミナー(木村 かおり先生)



11月 ドクターキャリア形成特別講義



11月 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)&
日本プライマリ・ケア連合学会学術大会報告会



11月 臨床実習入門特別講義(山口 育子先生)



11月 感染症セミナー(青木 眞先生)



11月 しまね総合診療の集い



12月 キャリアセミナー(一瀬 邦弘先生)



12月 地域医療セミナー(齊藤 稔哲先生)



12月 島根大学医学部地域医療支援学講座
15周年記念事業 島根地域医療シンポジウム



12月 島根大学医学部地域医療支援学講座
15周年記念事業 島根地域医療シンポジウム



1月 地域医療セミナー(安田 康晴先生)





鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

1月 キャリアセミナー(高橋 勉先生)



2月 中四国地域医療フォーラム



2月 しまね総合診療の集い



2月 地域医療セミナー(佐藤 優子先生)



3月 キャリアセミナー(鬼形 和道先生)



3月 3年生学年会



3月 えんネット交流会



3月 地域医療体験実習I(春季)



おわりに

MESSAGE

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が「2類」から「5類」へと変更されて、まもなく2年が経とうとしています。私たちは徐々に以前の生活を取り戻しつつありますが、正直なところ、なんとも言えない安堵感がこみ上げる今日この頃です。引き続き、基本的な感染対策を講じながら、日々の生活を送っていきたいと思います。

こうした状況の中、当講座が主催するセミナーや総合診療の集いなどのイベントについては、標準的な感染予防対策を遵守しつつ、原則「対面」で実施してまいりました。「全学年会・学年会」や「食事を伴うセミナー開催」など、コロナ禍前の取り組みに少しでも近づけるよう努めました。一方で、対面とWebを併用したハイブリッド型の教育も継続し、医学教育の提供方法として今後も不可欠であると強く感じた一年でもありました。今後も講座全体のブラッシュアップを図り、医学生や総合医の教育に尽力してまいります。

「令和」に込められた願いは、「一人ひとりが明日への希望を持ち、それぞれの花を大きく咲かせること」です。医学教育は、コロナ禍の終焉を迎え、新たなフェーズへと移行しましたが、環境や状況が変化しても、学生一人ひとりが大きく飛躍できるよう、引き続き支援を続けてまいります。

学内外の関係者の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和7年3月1日

地域医療支援学講座 助教 布野慶人

島根大学医学部地域医療支援学講座
令和6年度報告書

発行日 ■ 令和7年3月

発行者 ■ 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 佐野 千晶

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(ダイヤル)0853-20-2558 FAX 0853-20-2563

E-mail : career@med.shimane-u.ac.jp

URL : <https://www.communityshimane.jp/>

印刷・製本 ■ 有限会社 松陽印刷所

〒690-0826 島根県松江市学園南二丁目3番11号
